注3

大学番号:私477

[平成25年度設置]

計画の区分:学部学科設置

注1



福岡女学院大学 人文学部 言語芸術学科及び メディア・コミュニケーション学科 ^{注2}

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 福岡女学院 平成26年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名

ジ ム ブチョウ イカリ トシフミ 職名・氏名 事務部長・碇 利文

電話番号 092-575-6427

(夜間) 092-581-1492

F A X 092-575-4456

e — mail gakuji@fukujo.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
 - 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院 ・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

- () 書きにて、現在の名称を記載してください。
- 例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部(平成◇◇年度より変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合:「○○大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合:「○○大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合:「○○短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合:「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 通信教育課程の開設の場合:「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- ※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。
- 3 大学番号の欄については、平成26年3月20日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況 報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

1 調	査対象大学等の概要等	• • • •	1
(1)	設置者		
(2)	大学名		
(3)	大学の位置		
(4)	管理運営組織		
(5)	調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等		
	一① 調査対象学部等の名称,定員		
	-② 調査対象学部等の入学者の状況		
	一③ 調査対象学部等の在学者の状況		
	一④ 調査対象学部等の退学者等の状況		
2 授	業科目の概要		6
(1)	授業科目表		
(2)	授業科目数		
(3)	未開講科目		
(4)	廃止科目		
(5)	授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「	学生への周知方法	去」
(6)	「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目	目の計」の割合	
3 施	設・設備の整備状況, 経費	• • • •	19
4 既	設大学等の状況	• • • •	20
5 教	員組織の状況	• • • •	21
(1)	担当教員表	(一部省略)	
(2)	専任教員数		
(3)	専任教員辞任等の理由		
(4)	専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」		
6 留	意事項に対する履行状況等	• • • • •	33
7 そ	の他全般的事項	• • • • •	34
(1)	設置計画変更事項等		
(2)	教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)		
(3)	自己点検・評価等に関する事項		
(4)	情報公表に関する事項		
• 福岡	団女学院大学自己点検・評価・FD委員会規程(別添)		

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 福岡女学院

(2) 大学名

福岡女学院大学

(3) 大学の位置

〒811-1313 福岡県福岡市南区日佐3丁目42番1号

- (注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 - ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載して ください。

(4) 管理運営組織

職名	設 置 時	変 更 状 況	備考
理事長	(マツバラ ヤスヒロ) 松原 安宏 (平成19年6月)		
学長	(キノワキ エツロウ) 木ノ脇 悦郎 (平成22年4月)		
学 部 長	(ヨシダ シュウサク) 吉田 修作 (平成17年4月)		
学科長等 (言語芸術学科長)	(ウエダ オサム) 上田 修 (平成25年4月)		
学科長等 (メディア・ コミュニケーション学科長)	(キョカワ ナオト) 清川 直人 (平成25年4月)		

- (注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を ()書きで記入してください。
 - (例) 平成 2 4 年度に報告済の内容 → (24)
 - 平成26年度に報告する内容 → (26)
 - ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 - ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) · 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください (入試区分ごとではありません)。
 - ・ 様式は、平成23年度開設の4年制の学科の場合(平成26年度までの4年間)ですが、開設年度・ 修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合 には、欄を設けてください。)

(5) 一① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の		設 置 時		備 考		
名称(学位)	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	1	
人文学部 言語芸術学科 学士(人文学)	年 4	50	年次 人 3年次 2	204		
人文学部 メディア・コミュニケーション学科 学士(人文学)	年 4	50	年次 人 3年次 2	204		

- (注)・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平均入学定員	備考
区分	春季入学 その他の学期	春季入学 その他の学期	春季入学 その他の学期	春季入学 その他の学期	超過率)用 行
人文学部 言語芸術学科 A 入学定員	50 (-) [-]	50 (-) [-]	() []	() []		
志願者数			() ()	() ()		
受験者数	121 — (—) (—) [—] [—]	[-][-]	() ()	() ()	0.71 倍	
合格者数	59 — (—) (—) [—] [—]	[-] [-]	() ()	() ()		
B 入学者数	39 — (—) (—) [—] [—]	32	() ()	() ()		
入学定員超過率 B/A	0. 78	0. 64				
人文学部 メディア・コミュニケーション学科 A 入学定員	50 (-) [-]	50 (-) [-]	() []	() []		
志願者数	208 — (—) (—) [—] [—]	[-1]	() ()	() ()		
受験者数		174 — (—) (—) [—] [—]	() ()	() ()	1.04 倍	
合格者数	[-] [-]	91 — (—) (—) [—] [—]	() ()	() ()		
B 入学者数	52	52	() ()	() ()		
入学定員超過率 B/A	1.04	1. 04				

- (注)・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ ()内には、編入学の状況について<u>外数で</u>記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。 該当がない年には「<math>-」を記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程) 及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を 記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「一」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位まで記入してください。
 - ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。 なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度	平成 2	5 年度	平成2	6年度	平成 2	7 年度	平成 2	8 年度	備考
学年	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
人文学部 言語芸術学科	[-]	[-]	[-]	[-]	[]	[]	[]	[]	2年次生は転部により1名増加(26)
1 年次	39		32	_					
2 年次			[-]	[-]	[]	[]	[]	[]	
3 年次					[]	[]	[]	[]	
4 年次							[]	[]	
計	[-	-] 9	[-	-] 2	[]	[]	
人文学部 メディア・コミュニケーション学科 1 年次	[-] 52	[-]	[-] 52	[-]	[]	[]	[]	[]	
2 年次			[-] 51	[-]	[]	[]	[]	[]	
3 年次					[]	[]	[]	[]	
4 年次		<i></i>		/		<i></i>	[]	[]	
計	[- 5	-] 2	[-	-]	[]	[]	

- (注)・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「一」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「一」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数 を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

<人文学部 言語芸術学科>

区分	入学者数(b)	退学者数(a)	退学	学者数(内訳))	主な退学理由	入学者数に 対する退学者数
対象年度			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		の割合 (a/b)
			平成25年度	0 人	0 人		
平成25年度	39 人	0 人	平成26年度	0 人	0 人		0 %
入学者	39 人	0 7	平成27年度	人	人		0 %
			平成28年度	人	人		
			平成26年度	0 人	0 人		
平成26年度 入学者	32 人	0 人	平成27年度	人	人		0 %
			平成28年度	人	人		
平成27年度	人	0 人	平成27年度	人	人		%
入学者		٥٨	平成28年度	人	人		70
平成28年度 入学者	人	0 人	平成28年度	人	人		%
合 計	71 人	0 人					0 %

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

区分	入学者数(b)	退学者数(a)	退学	学者数(内訳))	主な退学理由	入学者数に 対する退学者数
対象年度			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数	11	の割合 (a/b)
			平成25年度	1 人	0 人	進路検討	
平成25年度	52 人	1 人	平成26年度	0 人	0 人		0.0 %
入学者	32 X		平成27年度	人	人		0.0 %
			平成28年度	人	人		
			平成26年度	0 人	0 人		
平成26年度 入学者	52 人	0 人	平成27年度	人	人		0 %
			平成28年度	人	人		
平成27年度	人	0 人	平成27年度	人	人		%
入学者		0 人	平成28年度	人	人		70
平成28年度 入学者	人	0 人	平成28年度	人	٨		%
合 計	104 人	1 人					0.0 %

- (注)・数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
 - ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。<u>(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)</u>
 - ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、<u>退学者数の内数</u>を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための 準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
 - ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成26年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、 【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(O人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学

・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

(1) 授業科目表

<人文学部 言語芸術学科>

科目			配当		単位数	ζ			専任教	女員等(の酢	置				
区分	}	授業科目の名称	年次	必修	選択	自由	教	授	准教授	講師	助	教	助	手		備考
		聖書概説 キリスト教の歴史と文化 キリスト教人間学	1前 2後 3前	2 2 2						1 1 1						
		First-year English A I	1前	2											兼4 兼2	教育効果を考慮し担当者を追加 (26)
		First-year English A I	1後	2											兼4 兼2	教育効果を考慮し担当者を追加 (26)
通科目	科目	First-year English B I	1前	2											兼4 兼2	教育効果を考慮し担当者を追加 (26)
		First-year English BI 情報リテラシー	1後 1前	2											兼4 兼2 兼1	教育効果を考慮し担当者を追加 (26)
		小計 (8科目)	_	16	0	0	0		0	1		0	0		兼5	受講者数を考慮し担当者を変更 (25)
		日本語トレーニングI	1前	2			2		1	0						受講者数を考慮し担当者を変更 (25) オムニバス
		日本語トレーニングⅡ	1後	2			2		1	0 -1						受講者数を考慮し担当者を変更(25) オムニパス
		英語トレーニング I 英語トレーニング I	1前 1後	2			1		0 1 1 0							教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
		英語発音スキル I	1前	2					1	0						教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 学内人事に伴う昇格 (25)
	必修科目	英語発音スキル II 身体表現ワークショップ シンキングゲーム I シンキングゲーム II	1後 1前 1前 1後	2 2 2 2			1 1		0 + -0	0						教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 学内人事に伴う昇格 (25)
専門教育科		インプロ・ゲーム	1前	2			3		2 2	1 2						学内人事に伴う昇格、及び教育効果を 考慮し授業形態を変更、及び受講者数 を考慮し担当者を変更 (25) 集中・オムニパス 集中 受講者数を考慮し担当者を変更 (26)
目		テーマ・シンキング	2前	2			3		3	1						学内人事に伴う昇格(25) オムニパス
		小計 (11科目)	_	22	0	0	3		3	1		0	0		兼0	
		言語芸術基礎 I	2前	2			3		2 3 2 3	0 1 0						受講者数を考慮し担当者を変更(26) 学内人事に伴う昇格(25) オムニバス 学内人事に伴う昇格(25)
	必修科	言語芸術基礎Ⅱ	2後	2			3		3 3	1 0						ナバス 事に伴う昇福(25) オムニバス 学内人事に伴う昇格(25)
	目(言語芸術演習I	3前	2			3		3	1 0						学内人事に伴う昇格(25)
	総合演習	言語芸術演習Ⅱ	3後	2			3		3	0						学内人事に伴う昇格 (25)
	習)	言語芸術研究Ⅰ	4前	4			3		3	0						学内人事に伴う昇格 (25)
		言語芸術研究Ⅱ 小計 (6科目)	4後	16	0	0	3		3 2	0		0	0		兼0	

*.1			z7 ···		単位数	,		専任参	数員等の	の配置		
科 区:		授業科目の名称	配 当年 次		選択		教 垺		講師		助手	備考
\vdash	1			ا ان ا	الا حد الا	ц ш	TA IX	2	<u>ын</u> ыл	*** *X	*** T	学内人事に伴う昇格(25)
		海外フィールドワーク(理論) I	3前		2		1	-1	+			子内入事に任つ升俗(20) オムニバス
			נים		_		'	2	0			44-7 ^ 学内人事に伴う昇格 (25)
		海外フィールドワーク(理論)Ⅱ	3後		2		1	+	 			オムニバス
専			• 12		_		•	3	1			学内人事に伴う昇格(25)
門教	択必	海外フィールドワーク(実践)	3前		6		3	2	2			集中
育		国内フィールドワーク(理論)I	3前		2		2	1	1			オムニハ゛ス
科 目	科目		3後		2		2	1	1			オムニハ゛ス
	ľ							3	1			学内人事に伴う昇格 (25)
		国内フィールドワーク(実践)	3前		4		3	2	2			集中
								3	1			
		小計 (6科目)		0	18	0	3	2	2	0	0	兼0 —
		Test Preparation	1 · 2 · 3 · 4前 · 後		2							兼5 教育効果を考慮し担当者を追加(26) 兼4 リピート
		Speaking Skills A	2・3・4前		2							兼6 リピート
		opeaning on the A			_							兼7 教育効果を考慮し担当者を追加(26)
		Speaking Skills B	2·3·4後		2							兼6 リピ [・] ート
		Reading Skills A	2・3・4前		2							兼5 リピート
												兼6 教育効果を考慮し担当者を追加 (26)
		Reading Skills B	2·3·4後		2							兼5 リピート
												兼4 教育効果を考慮し担当者を追加 (26)
		Listening Skills	2・3・4前		2							兼3 リピート
					_							兼4 教育効果を考慮し担当者を追加(26)
		Writing Skills	2·3·4後		2							兼3 リピート
		Academic Reading A	3・4前		2							兼1 リピ [・] -ト
		Academic Reading B	3.4後		2							兼1 リピート 兼1
		中国語 I 中国語 II	1・2・3・4前		2							兼1
		中国語皿	2・3・4前		2							来 □ 兼1
		中国語Ⅳ	2・3・4後		2							兼1
		韓国語I	1.2.3.4前		2							兼1
		韓国語Ⅱ	1・2・3・4後		2							兼1
		韓国語皿	2・3・4前		2							兼1
		韓国語Ⅳ	2·3·4後		2							兼1
大		フランス語 I	1・2・3・4前		2							兼1
学	選	フランス語Ⅱ	1・2・3・4後		2							兼1
共		フランス語皿	2・3・4前		2							兼1
通 科	科日	フランス語Ⅳ	2·3·4後		2							兼1
目		AXII 1077 7 - 7 (BX/N/)	1・2・3・4前		2							兼1集中
		異文化へのアプローチ(アジア)	1・2・3・4前		2							兼1 集中 ※2
		健康・スポーツ科学実習 A 健康・スポーツ科学実習 B	1・2・3・4前		1							兼3 兼3
		健康・スポーク科学美音B 社会人入門 I	1後		2							来3: 兼1:
		社会人入門Ⅱ	2後		2							兼1
		社会人入門皿	3前		2							兼1
		インターンシップ	2前・後		2							兼1 集中
												兼3
		PC演習A(ワード)	1・2・3・4前・後		2							兼2 教育効果を考慮し担当者を追加 (25)
												兼4 教育効果を考慮し担当者を追加 (26)
		PC演習B(エクセル)	1・2・3・4前・後		2							兼3
		PC演習C(応用)	1・2・3・4前・後		2							兼1
		教育原論			_							教職課程認定委員会からの意見を
		教育原理 I	2・3・4前		2							兼2 受け科目名称を変更 (25)
		教育経営論	9.9 444		0							教職課程認定委員会からの意見を 兼2 受け科目名称を変更(25)
		教育原理Ⅱ	2·3·4後		2							兼2
		教育心理学	2・3・4後		2							兼1教職課程認定委員会からの意見を受け担当者を追加(26)
		スロース 人権教育の理論と指導法	2・3・4版		2							兼 2
		障害児教育の理論と指導法	2・3・4後		2							兼1
												兼34
												兼31
L		小計 (37科目)		0	72	0	0	0	0	0	0	*************************************

科目		配当		単位数			専任教	対員等の	の配置		<u> </u>
区分	授業科目の名称	年次	必修	選択	自 由	教 授	准教授	講師	助教	助手	-
区人文学部共分	生命科シー環境 ジェンダースタディ(女性と社会) ジェンダースタディ(女性と社会) ジェンダースタディ(女性とと聖書) 人権本人 学学経入門門国際政治を含む) 国際学法社成会 (著際学入入民育 (日本語) 上較教教育(日本) 田東 (日本語) 日本語 コミュニケーション技法 (日本語 コミュニケーション (日本語 コミュニケーション技法 (日本語 コニューケーション技法 (日本語 コミュニケーション技法 (日本語 コニューケーション技法 (日本語 コニーケーション (日本語 コミュニケーション技法 (日本語 コミュニケーション技法 (日本語 コニティーション技法 (日本語 コニケーション (女性と社会) (日本語 コニティー(女性と社会) (日本語 コニーク (女性と社会) (日本語 コニティー(女性と社会) (日本語 コニティー(女性と社会) (日本語 コニティー(女性と社会) (日本語 コニティー(女性と社会) (日本語 (日本語 (日本語 (日本語 (日本語 (日本語 (日本語 (日本語	年 次 4歳	<u>必</u> 修	選 択 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	自由	教 授	1 0	講 師	助教	助手	兼1 兼1 兼1 兼0 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
	小計 (35科目) 舞台制作 I	1 · 2 · 3 · 4前	0	70 2	0	0	1 0 0	0	0	0	兼21 兼22 兼24 受講者数を考慮し担当者を変更(25) 兼1 集中・リピート
教芸	舞台制作 II ヴォイストレーニング 映画 と社会 映画 研究 J 映画 研究 E	1·2·3·4前 1·2·3·4前 1·2·3·46 1·2·3·46 1·2·3·46 1·2·3·46 1·2·3·46 1·2·3·46 2·3·46 2·3·46 2·3·46 2·3·46 2·3·46 2·3·46 2·3·46 2·3·46 2·3·46 2·3·46 2·3·46 2·3·46 2·3·46 2·3·46 2·3·46 2·3·46		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		1 1 1 1	0 1 1 1 1 1 0	0 +			乗口・リピート 教育効果を考慮し開講期を変更及び 受講者数を考慮し担当者を変更(25) 兼1 集中・リピート 兼1 教育効果を考慮し開講期を変更(25) 学内人事に伴う昇格(25) 兼1 学内人事に伴う昇格(25)

科目		配当		単位数	[専任教	な員等の	の配置		
区分	授業科目の名称	年次	必修	選択	自 由	教 授	准教授	講師	助教	助手	<mark>-</mark> 横 考
	小説のスタイル	2・3・4前		2		1					
	= ロスカイリ	0.0		_			1 -0 -	0			学内人事に伴う昇格 (25)
	詩のスタイル	2·3·4前 2·3·4後		2 2		1	-0	+			
	物語のスタイル 美術館・博物館フィールドワーク	2·3·4後		2		1					集中
	劇場フィールドワーク I	2・3・4版		2		1					未出
	劇場フィールドワークⅠ	2・3・4街		2		1					
	宗教と文化	3・4後		2		'		1			
	演劇・芸能研究J	3・4後		2		1					
	演劇・芸能研究E	3・4後		2			1				
	名作を読むJⅡ	3・4前		2		1					
	名作を読むEⅡ	3・4後		2		1					
	NPO入門	3・4前		2							兼1
	言語芸術ワークショップA	1・2・3・4前		2		1					集中・リピート
											リピート 教育効果を考慮し開講期を変更 (25)
	言語芸術ワークショップB	1・2・3・4前		2		1					集中·リピート
	言語芸術ワークショップC	1・2・3・4前		2		1					集中・リピート
											リピート 教育効果を考慮し開講期を変更 (26)
	言語芸術ワークショップD	1・2・3・4前		2			1				集中・ルート
	言語芸術ワークショップE	1・2・3・4前		2			1				集中・リピート
		1-2-3-4前 - 後									リピート 教育効果を考慮し開講期を変更 (26)
							1	0			学内人事に伴う昇格(25)
	言語芸術ワークショップF	1-2-3-4前		2			-0-	+			集中・ル・ト
	言語芸術ワークショップG	1・2・3・4前		2				1			集中・リピート
l _ l	言語芸術フィールドワークA	1・2・3・4前		2		1					集中・リピート
専門道	图	1・2・3・4後									リピート 教育効果を考慮し開講期を変更 (25)
教技	選言語芸術フィールドワークB	1234前		2		1					集中·兆°-1
育科	料言語芸術フィールトワーグと	1・2・3・4前		2		1					集中·リピート
科目		1 · 2 · 3 · 4後		,							リピート 教育効果を考慮し開講期を変更 (26) 集中・リピート
目	言語芸術フィールドワークD	1·2·3·4前 1·2·3·4前		2			1				214 1 74 1
	言語芸術フィールドワークE	1.7.3.4					1	0			集中・リピート 学内人事に伴う昇格 (25)
	言語芸術フィールドワーク F	1・2・3・4前		2			 	+			集中・リピート
	言語芸術フィールドワークG	1・2・3・4前		2				1			集中・リピート
	アートマネージメント	2・3・4前		2				·			兼1 集中
		1・2・3・4前		_							N. A.I
	異文化コミュニケーション	1·2·3·4後		2							兼1 教育効果を考慮し開講期を変更(25)
	初級英語音声学	2・3・4後		2		1					
	英語学概論	2・3・4後		2		1					
	英文法 I	2・3・4前		2							兼1
	英文法Ⅱ	2・3・4後		2							兼1
	第二言語習得理論 I	2・3・4前		2							兼1
	第二言語習得理論Ⅱ	2・3・4後		2							兼1
	イギリス文学の変遷I	2・3・4前		2			1				
	イギリス文学の変遷Ⅱ	2・3・4後		2			1				
							1	0			学内人事に伴う昇格 (25)
	イギリス文学 I	3・4前		2			-0	+			
		<u> </u>					1	0			学内人事に伴う昇格 (25)
	イギリス文学Ⅱ	3·4後		2			-0-	+			
	アメリカ文学の変遷Ⅰ	2・3・4前		2							兼1
	アメリカ文学の変遷Ⅱ	2・3・4後		2							兼1
	アメリカ文学Ⅰ	3・4前		2							兼1
	アメリカ文学Ⅱ	3・4後		2			2	1			兼1
	小計 (56科目)		0	112	0	3	3	1	0	0	兼10 —
							3	1			兼62
	小計 (159科目)		54	272	0	3	2	2	0	0	兼64 —

科目	授業科目の名称	配当		単位	数				専任教	教員	等の	D配	置		備考	
区分	授業科目の石柳	年 次	必(選	択	自日	由孝	敦 授	准教授	講	師	助	教	助手	1/用 / 与	
	教師論	2前				2									兼1	
	教育課程論	2前				2									兼1 教職課程認定委員会からの意見を受け科目	を追加 (25)
	英語科教育法 [2前				2									兼1	
	英語科教育法Ⅱ	2後				2									兼1	
	英語科教育法Ⅲ	3前				2									兼1	
*/-	英語科教育法Ⅳ	3後				2									兼1	
教 職	道徳教育の理論と指導法	3後				2									兼1	
に	特別活動の理論と指導法	2後				2									兼1	
関	教育方法論	2後				2									兼1 教職課程認定委員会からの意見を受け科目	を追加 (25)
すっ	生徒指導の理論と指導法	3前				2									兼1	
る 科	教育相談	3後				2									兼1	
目 目	教育実習 I	3後~4前				1									兼1	
	教育実習Ⅱ A	4後				4									兼1	
	教育実習ⅡB	4後				2									兼1	
	教職実践演習(中・高)	4後				2									兼1	
															兼6	
	小計 (15科目)					31									兼5	
	小計 (13科目)	_	0	0		-27	.	0	0	0)	0	1	0	兼4 —	
															兼67	
	合計 (174科目)					31			3	1					兼66	
	合計 (172科目)	_	54	27	2	- 27	1	3	2	-2	-	0	1	0	兼6 7 —	

- (注)・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任,兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で,前年度報告時(平成25年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し,「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。

なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

- ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- · 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

	科目 単位数 専任教員等の配置									, p	O #7 #9	-	T
	日分		授業科目の名称	配 当年 次				教 授				助手	備考
			聖書概説 キリスト教の歴史と文化 キリスト教人間学 First-year English A I	1前 2後 3前 1前	2 2 2								兼1 兼1 兼1 兼4 教育効果を考慮し担当者を追加 (26) 兼2
入学 共 通 科	1	必修	First-year English A II	1後	2								兼4 教育効果を考慮し担当者を追加 (26) 兼2
通科目	1	科目	First-year English B I	1前	2								兼4 教育効果を考慮し担当者を追加 (26) 兼2
			First-year English BI 情報リテラシー	1後 1前	2 2								兼4 教育効果を考慮し担当者を追加(26) 兼2 兼1
			小計 (8科目)	<u> </u>	16	0	0	0	0	0	0	0	兼6 兼7 ・受講者数を考慮し担当者を変更(25)
計	毒臭	必修	現代メディア論コミュニケーション論	2前 2前	2 2					1			兼1
	<u>⊸</u> 1	141	ナサイン論	2後	2	^		1					**
핕	图 '		小計 (3科目) 入門ワークショップ I	 1前	6	0	0	2	0	1	0	0	兼1
		必	入門ワークショップⅡ メディア基礎演習	1後 1前 1後	2			2 1 0	1				教育効果を考慮し開講期を変更 (26) 集中 教育効果を考慮し担当者、授業形態を変更 (25)
専門教育科	1	科目	コミュニケーション基礎演習 デザイン基礎演習 卒業研究 I 卒業研究 I 卒業研究Ⅲ	1前 1前 3後 4前 4後	2 2 2 2 2			1 5 5 5		1 1 1			兼1 オムニハ・ス -
育科品	総合寅		小計 (8科目)		16	0	0	5	1	1	0	0	兼1 兼0 —
E	3	選択必修科品	メディア演習 I A メディア演習 I B メディア演習 I B メディア演習 II コミュニケーション演習 I A コミュニケーション演習 I B コミュニケーション演習 I B デザイン演習 I B デザイン演習 I B	2前·後 2前·後 3前·3前·前 2前·6 2前·後 2前·後 3前		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		1 1 1 1 2 1 1 1 2		1 1			
Ш			小計 (9科目)		0	18	0	5	0	1	0	0	兼0
大学共通科目	注 注 非	選択科目	Test Preparation Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills B Reading Skills B Listening Skills Writing Skills Writing Skills Academic Reading A Academic Reading B 中国語語 I 中国語語 I 中国語語 I 韓国語語 I 韓国語 I 韓国語 I 韓国語 I	1-2-3-4前-设 2-3-4前 2-3-4後 2-3-4後 2-3-4後 2-3-4後 1-2-3-4被 1-2-3-4前 1-2-3-4前 1-2-3-4前 2-3-4前 2-3-4前 2-3-4前 2-3-4前 2-3-4前		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2							兼5 教育効果を考慮し担当者を変更・追加(26) 兼4 リピート 兼6 リピート 兼7 教育効果を考慮し担当者を追加(26) 兼6 リピート 兼6 教育効果を考慮し担当者を追加(26) 兼5 リピート 兼4 教育効果を考慮し担当者を追加(26) 兼3 リピート 兼4 教育効果を考慮し担当者を追加(26) 兼3 リピート 兼4 教育効果を考慮し担当者を追加(26) 兼3 リピート 兼1 リピート 兼1 リピート 兼1 リピート 兼1 リピート 兼1 リピート 兼1 サート 兼1 ま1 ま1 兼1 兼1 ま1
			フランス語 I フランス語 II フランス語 II フランス語IV	1·2·3·4前 1·2·3·4後 2·3·4前 2·3·4後		2 2 2 2							兼1 兼1 兼1 兼1

科目	1		配当		単位数			専任教	数員等(の配置			,
区分		授業科目の名称	年次	必修	選択	自 由	教 授	准教授	講師	助教	助手		備考
		異文化へのアプローチ(欧米)	1・2・3・4前		2							兼1	集中
		異文化へのアプローチ(アジア)	1・2・3・4前		2							兼1	集中
		健康・スポーツ科学実習A	1・2・3・4前		1							兼3	
		健康・スポーツ科学実習B	1・2・3・4後		1							兼3	
		社会人入門Ⅰ	1後		2							兼1	
		社会人入門 Ⅱ 社会人入門 Ⅲ	2後 3前		2 2							兼1 兼1	
		インターンシップ	3 刑J 2前・後		2							兼1	集由
		1 23 - 2292	2 削 1 夜				1					水口	未生
١.		PC演習A(ワード)	1 - 2 - 3 - 4前 - 後		2		<u>-</u>					兼2	教育効果を考慮し担当者を追加(25)
大学	選				_		ľ						教育効果を考慮し担当者を追加(26)
共		PC演習B(エクセル)	1・2・3・4前・後		2							兼3	
通	科	P C 演習 C (応用)	1 - 2 - 3 - 4前 - 後		2							兼1	
科	目	教育原論											教職課程認定委員会からの意見を受
目		教育原理 I	2・3・4前		2							兼2	け科目名称を変更 (25)
		教育経営論											教職課程認定委員会からの意見を受
		教育原理Ⅱ	2·3·4後		2							兼2	け科目名称を変更 (25)
													教職課程認定委員会からの意見を受け担当者を追加(26)
		教育心理学	2・3・4後		2							兼1	
		人権教育の理論と指導法	2・3・4前		2							兼2	
		障害児教育の理論と指導法	2·3·4後		2							兼1	
							1					兼33 兼31	
		小手 (27手) P.)		0	70	0		0	0	0	0	兼31 兼30	
-	-	小計 (37科目) 生命科学入門	1 · 2 · 3 · 4後	U	72 2	U	-0-	U	U	U	U	兼30 兼1	_
		エ叩科子パリ	1・2・3・4後		2							兼1	
		自然と環境	1・2・3・4後		2							兼1	
		ジェンダースタディ(女性と社会)	1・2・3・4後		2							兼1	
													教育効果を考慮し担当者を新規採用(26)
													担当者就任辞退のため、後任を公募中(25)
		ジェンダースタディ(女性と性)	1・2・3・4前		2							兼1	
		ジェンダースタディ(女性と聖書)	1・2・3・4後		2							兼1	
			1・2・3・4後										
		人権と法(著作権法を含む)	1-2-3-4前		2							兼1	教育効果を考慮し開講期を変更 (25)
		日本国憲法	1・2・3・4前		2							兼1	
		文化人類学	1・2・3・4前		2							兼1	
			1・2・3・4後										
		社会学入門	1 2 3 4前		2								教育効果を考慮し担当者・開講期を変更 (25)
		経済学入門	1・2・3・4前		2							兼1	
		国際経済論	2・3・4後		2							兼1	
		政治学入門(国際政治を含む)	2・3・4前		2							兼1	
		国際法入門	1 · 2 · 3 · 4後		2							兼1 **1	
人		国際社会と民族 人間形成と教育	1・2・3・4前		2 2							兼1 兼1	
文	122	大間形成と教育 比較教育 A (日本と欧米)	2・3・4前		2							兼1	
学部	選択	比較教育 B (日本とアジア)	2・3・4制		2							兼1	
共		児童文学(英語)	2·3·4後		2							兼1	
通	目	キッズコミュニケーション	3・4前		2							兼1	
科品		児童英語教育法	2·3·4前		2							兼1	
目		児童英語指導法演習 I	3・4前		2							兼1	
		児童英語指導法演習 Ⅱ	3・4後		2							兼1	
		児童英語フィールドワーク	3・4前		2							兼1	リヒ゜ート
												兼0	担当者1名就任辞退による変更 (26)
		児童日本語教育法	2・3・4後		2			1				兼1	
													担当者1名就任辞退による変更 (26)
		日本語コミュニケーション技法A	2·3·4後		2							兼3	
		日本語コミュニケーション技法B	3・4前		2							兼3	
		日本語コミュニケーション技法C	3·4後		2							兼3	
		日本語教育概論Ⅰ	2・3・4前		2			1					
		日本語教育概論Ⅱ	2·3·4後		2			1					
		日本語教材研究Ⅰ	3・4前		2			1					
		日本語教材研究 Ⅱ 日本語教授法演習 Ⅰ	3·4後 4前		2 2			1					
		日本語教技法演省 I 日本語教授法演習 II	4前 4後		2			1					
		ロ 本 語 教 技 法 典 百 Ⅱ 日本語教育実習フィールドワーク	41天 2·3·4前·後		2			1					集中
			15.				 					兼21	-1- 1
												兼22	
		小計 (35科目)	_	0	70	0	0	1	0	0	0	兼23	_
	-				<u> </u>								

利	·目		配当		単位数	Ţ		専任教	数員等(の配置			
	分	授業科目の名称	年次	必修	選択	自 由	教 授	准教授	講師	助教	助手		備考
П		メディア史	2・3・4前		2				1				
		広告論	2・3・4前		2							兼1	
		映像論	2·3·4前 2·3·4後		2							兼1	教育効果を考慮し開講期を変更 (26)
		吹1多 誦	1·2·3·4後										教育効果を考慮し開講期を変更 (26)
													前期 教育効果を考慮し前期へ変更(25)
		地域メディア論	1-2-3-4前		2				1				集中
		マスコミ論	1・2・3・4後		2		1						
		実践時事問題研究	2·3·4後		2		1						
			1·2·3·4前 1·2·3·4後										教育効果を考慮し開講期を変更 (26)
		メディア・リテラシー	1-2-3-4前		2				1				- 教育効果を考慮し開講期を変更 (25)
		メディア文化論	2·3·4後		2				1				
		メディアとことば	2·3·4後		2		1						
		メディア表現研究 A (放送・映像メディア)	2・3・4前		2		1						
			2・3・4前		2							兼1	
			2·3·4後 2·3·4前		2 2							兼1 兼1	
		マスメディア・フィールドワーク	2・3・4前		2		1					11/1	集中
		ことばとコミュニケーション	1・2・3・4後		2		1						
		マーケティングとコミュニケーション	2・3・4前		2							兼1	
		対人コミュニケーション	2・3・4前		2							兼1	
		組織コミュニケーション	2・3・4前		2							兼1	
		メディアとコミュニケーション			2		1						- 教育効果を考慮し開講期を変更 (25)
		デザインとコミュニケーション	2·3·4後		2		1						扱自別末で写廊し開語列で友文(20)
		ネットワーク社会とコミュニケーション	2·3·4後		2				1				
		文化とコミュニケーション	2·3·4後		2		1						
専 =	#		1・2・3・4前										
専門教育	再選	異文化コミュニケーション	1-2-3-4後		2		1						教育効果を考慮し開講期を変更 (25)
教育、	】	て 料社会言語学	2·3·4前 2·3·4後		2		1						教育効果を考慮し開講期を変更 (25)
科	寅日	「社会自品子」	2・3・4前		2		'					兼1	教育効果を考慮し開調期を変更(23)
目	3	コミュニケーション外書講読I	3・4前		2		1						
		コミュニケーション外書講読Ⅱ	3·4後		2		1						
			2·3·4後										教育効果を考慮し開講期を変更(26)
		英語表現とコミュニケーション	2·3·4前		2		1						
		視覚コミュニケーション論 メディアアート論	2・3・4前2・3・4前		2 2							兼1 兼1	
		デジタル表示論	2・3・4前		2							兼1	
		比較美術表現論	1・2・3・4後		2		1						
		デザイン形成論	2・3・4前		2		1						
		造形表現基礎	2·3·4後		4		1						
		デザイン表現研究 A (色彩)	1・2・3・4前		2		0					並 1	数本故思大老虎」担义老大杰克(OC)
		 デザイン表現研究B(印刷)	2·3·4後		4		1					ボリ	教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
		デザイン表現研究C(映像)	2・3・4前		4		1						
		デザイン表現研究 D (写真)	2·3·4後		2							兼1	
		デザイン表現研究 E(CG)	2·3·4後		4		1						
							1						受講者数を考慮し担当者を変更 (26)
		デザイン表現研究 F (素材) メディアアート演習	2・3・4前2・3・4後		4		2					兼1	リピ-ト
		マスカルチャー論	1.2.3.4前		2								集中 教育効果を考慮し変更(25)
		ビジネス英語	1・2・3・4前		2							兼1	
		サウンド表現演習A	2·3·4後		2							兼1	
		サウンド表現演習B	2·3·4後		2							兼1	
		サウンド表現演習C	2・3・4前2・3・4前		2 2								集中
		コピーライティング研究 情報処理 A	2・3・4前		2							兼1 兼1	
		INTERIOR OF THE PROPERTY OF TH	2·3·4街		-								教育効果を考慮し開講期を変更 (26)
		情報処理B	2·3·4前		2							兼1	
Ш		情報処理C	2·3·4後		2							兼1	

Ŧ	目	哲学到日の存む	配当		単位数			専任教	女員等の	の配置		備考
Σ	分	授業科目の名称	年 次	必修	選択	自 由	教 授	准教授	講師	助教	助手	備考
			1・2・3・4前・後									教育効果を考慮し開講期を変更 (26)
							5	1	1			教育効果を考慮し担当者、授業形態を変更 (25)
		ワークショップA	1-2-3-4前		2		+	-0-	-0-			リヒ゜ート・オムニハ゛ス
							2					兼2 教育効果を考慮し担当者を追加(26)
		ワークショップB	1・2・3・4前		2		4					リヒ°ート
							0		1			教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
		ワークショップC	1・2・3・4前		2		4					リヒ°ート
		ワークショップD	1・2・3・4前		2		1					リヒ°ート
		ワークショップE	1・2・3・4前		2		1					リヒ°ート
		ワークショップF	1・2・3・4前		2			1				リヒ°ート
専門	禁	ワークショップG	1・2・3・4前		2				1			リヒ°ート
門	講選	フィールドワークA	1・2・3・4前		2		1					リヒ゜ート
叙	. IT		1・2・3・4後									兼 1 集中 教育効果を考慮し開講期、授業形態を変更、担当者を追加 (26)
科	· 寅 習	フィールドワークB	1-2-3-4前		2		1					リヒ [°] ート
	習						2		1			『ピート・オムニパス 集中 教育効果を考慮し授業形態を変更、担当者を変更・追加 (26)
		フィールドワークC	1・2・3・4前		2		4					<u> </u>
												集中 教育効果を考慮し授業形態を変更 (26)
		フィールドワークD	1・2・3・4前		2		1					リヒ°ート
		フィールドワークE	1・2・3・4前		2		1					リヒ°ート
		フィールドワークF	1・2・3・4前		2			1				リヒ°ート
		フィールドワークG	1・2・3・4前		2				1			リヒ°ート
		日本語学概論 I	2・3・4前		2		1					
		日本語史 I	2・3・4前		2		1					
												兼21
		小計 (66科目)	_	0	144	0	5	1	1	0	0	兼18 —
												兼73
1												兼71
L		合計 (166科目)	_	38	304	0	5	1	1	0	0	兼72

- (注)・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任,兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成25年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任,兼担の教員が担当する授業科目については,備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

<人文学部 言語芸術学科>

	設置	時の	計 画				変	更	状		況		備考
必修	選択必修	選択	自由	計	必	修	選択必修	選	択	Ш	由	計	1
科目	科目	科目	科目	科目	Ŧ	4目	科目		科目		科目	科目	
25	6	128	13	172	25 [0]	6 [0]	1 [(28)]	[15 2]		教職課程認定委員会からの意見 を受け2科目を追加 (25)

(注)・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[] 内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例:1科目減の場合:△1)

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

	設置	時の	計 画				変	更	状	況		備	考
必修	選択必修	選択	自由	計	必	修	選択必修	選	7	自 由	計	1VHI	75
科目	科目	科目	科目	科目		科目	科目	科	目	科目	科目		
19	9	138	0	166	19	9	9	138		0	166		
					[0]	[0]	[0]]	[0]	[0]		

(注) 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[] 内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例:1科目減の場合:△1)

(3) 未開講科目

<人文学部 言語芸術学科>

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由,代替措置の有無
1	言語芸術ワークショップA	2	1・2・3・4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し次年度開講に向けてあり方を検討。
2	言語芸術ワークショップC	2	1-2-3-4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し次年度開講に向けてあり方を検討。
3	言語芸術ワークショップE	2	1-2-3-4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し次年度開講に向けてあり方を検討。
4	言語芸術ワークショップG	2	1-2-3-4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し次年度開講に向けてあり方を検討。
5	言語芸術フィールドワークA	2	1・2・3・4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し次年度開講に向けてあり方を検討。
6	言語芸術フィールドワークC	2	1・2・3・4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し次年度開講に向けてあり方を検討。
7	言語芸術フィールドワークE	2	1・2・3・4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し次年度開講に向けてあり方を検討。
8	言語芸術フィールドワークF	2	1・2・3・4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し次年度開講に向けてあり方を検討。
9	言語芸術フィールドワークG	2	1-2-3-4前集中	専門	選択	教育効果を考慮し次年度開講に向けてあり方を検討。

- (注)・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となって いる授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由,代替措置の有無
1	メディア史	2	2·3·4前	専門	選択	授業効果を考慮し平成26年度は開講せず次年度に開講予定。
2	メディア制作ワークショップ	2	2·3·4前	専門	選択	授業効果を考慮し平成26年度は開講せず次年度に開講予定。
3	デザインとコミュニケーション	2	2·3·4後	専門	選択	授業効果を考慮し平成26年度は開講せず次年度に開講予定。
4	文化とコミュニケーション	2	2·3·4後	専門	選択	授業効果を考慮し平成26年度は開講せず次年度に開講予定。
5	デザイン形成論	2	2·3·4前	専門	選択	授業効果を考慮し平成26年度は開講せず次年度に開講予定。
6	ワークショップD	2	1・2・3・4前	専門	選択	教育効果を考慮し次年度開講に向けてあり方を検討。
7	ワークショップE	2	1・2・3・4前	専門	選択	教育効果を考慮し次年度開講に向けてあり方を検討。
8	ワークショップF	2	1・2・3・4前	専門	選択	教育効果を考慮し次年度開講に向けてあり方を検討。
9	ワークショップG	2	1・2・3・4前	専門	選択	教育効果を考慮し次年度開講に向けてあり方を検討。
1 0	フィールドワークA	2	1・2・3・4前	専門	選択	教育効果を考慮し次年度開講に向けてあり方を検討。
1 1	フィールドワークE	2	1・2・3・4前	専門	選択	教育効果を考慮し次年度開講に向けてあり方を検討。
1 2	フィールドワークF	2	1・2・3・4前	専門	選択	教育効果を考慮し次年度開講に向けてあり方を検討。
1 3	フィールドワークG	2	1・2・3・4前	専門	選択	教育効果を考慮し次年度開講に向けてあり方を検討。

- (注)・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となって いる授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 - ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

<人文学部 言語芸術学科>

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由,代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

(注)・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由,代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注)・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入して ください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- (5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<人文学部 言語芸術学科>

未開講科目

番号1~9:ワークショップ、フィールドワークいずれも開講に向け、そのあり方を集中講義形式の見直しを含めながら、教育効果を高めていけるよう工夫していく。該当科目は次年度以降も履修可能であり、リピート科目でもあることから、支障ないよう適切に対応していく。

(注)・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

未開講科目

番号1~5:授業効果を考慮し次年度から履修できるようにする。

番号6~13:ワークショップ、フィールドワークいずれも開講に向け、そのあり方の見直しを含めながら、教育効果を高めていけるよう工夫していく。該当科目は次年度以降も履修可能であり、リピート科目でもあることから、支障ないよう適切に対応していく。

(注)・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6)	「設置時の計画の授業科目数の計」	に対する	「未開講科目と廃止科目の計」	の割合

<人文学部 言語芸術学科>

未開講科目と廃止科目の計	_	0. 05
設置時の計画の授業科目数の計	_	0.00

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

 未開講科目と廃止科目の計
 =
 0.07

 設置時の計画の授業科目数の計

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

施設・設備の整備状況,経費

	区 分 専 用 校舎敷地 —							内					容			備考
(1)	[2	ζ.	分		専		用	共	用		共用する 学校等σ				計	福岡女学院大学短期 大学部と共用
-	校	舎 敷	地	ļ		_	· m²		48, 165. 98			_	m²	4	48, 165. 98 m	
校	通	動場月	用地			_	· m²		8, 584. 82	m²	_		mi		8, 584. 82 m	, î
地	/]		計			_	· m [*]		56, 750. 80	m [‡]	_	_	m²		56, 750. 80 m	<u>.</u> 1
Arte-	7	· の	他			_	· m²		2, 657. 23	m²	_	_	m		2, 657. 23 m	
等	슫	ì	計			_	· m²		59, 408. 03	m²	_		m	Ę	59, 408. 03 m	ຳ້
					専		用	共	用		共用する 学校等σ				計	福岡女学院大学短期 大学部と共用
(2) 校		舎		•			287 m²		26, 280. 58		_	_	m	2	26, 567. 58 m	2
					(2	87 m ²)	(24,	075. 26 m²	(_	m²)	(24, 3	862. 26 m²)	
				講	義 室		演習	室	実験	全 智室	情報外	処理学習	習施設	語学	学習施設	福岡女学院大学短期 大学部と共用
															3 室	と既存校舎の用途変
(3) 教	室	等			49	室	6	室	15		室 4 <u>安</u> 8		4 室 8 호		4 	昼 更中による変更。 (25)
					00	-	_			_	(補助	職員		(補助	職員 0 人)	125周年記念館の新築 完成と既存校舎の用
							新設学部	等の名称			室			数		<u>徐変更による変更。</u>
(4) 専	専任教員研究室 人文学部 言語芸						語芸術学科				7		7		室	
	人文学部 メディ						ディア・コ	ミュニケ	科	7		1		室		
	人文学部 メディ 図 書					学術	雑誌	ı	LEGISTE AND AREA LINE			14414 00 8 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		福岡女学院大学短期 大学部と共用につき		
(5)		学部等 名称		〔う	ち外国書)	〔うちタ	外国書〕 電子ジャー		ャーナル			機械・器具		標本	大学・短大全体の数値を計上している。
		H 113				m		種	〔うち	/国書〕	[書] 点			点	点	電子ジャーナル数はバージョンアップに
-									9, 000 [9.0001						よりタイトル数が大幅に増加した。
	人文学部							34]	6, 653 (0, 000,						(25)
	言語芸術学 ディア・コ ケーション	ミュニ			00 (57, 2) 237 (55, 57,			5 (76) 6 (34))		(2, 361) (8, 603))	(8,	9, 960 769)	1	1, 517)学術雑誌に一般雑誌 が含まれていたた
書•				(===,	280 (56, 07		,	(40)	(0,000	(6, 653)		416)	(1,47		(0)	め、これを更正し た。(26)
設備				(239,)	300 (56, 30)	7	(230	(76)		(2, 361)	(δ,	760)	-(1, 4)	57)	(0)	電子ジャーナルは
,,,							156	6 [34]	,	[9, 000] [6, 653]						バージョンアップによりタイトル数が大
	i	Ħ			00 (57, 20			76)	2, 361 (_,,		9, 960	1	, 517		の <mark>幅に増加した。</mark> (26)
					237 (55, 57 . 280 (56, 07			34]) (40])		(8, 603)) (6, 653))		8, 769) , 416)	(1, 47	77)		
				(230, (300 (56, 30)))		(76)	, ,	(2, 361)	-(-8,	760)	, .,	57)	(0)	福岡女学院大学短期
(6) 図	書	館			面		積			座席数		収	納可	能		大学部と共用
3, 552. 28 m ² 400 205, 000) 福岡女学院大学短期								
(7) 体	(7) 体 育 館 1.860.34 ml ケニスコート4面								大学部と共用							
	1					T	1, 860. 34					<u> </u>				大学・短大全体教員
(0)	区 分 開設年度 完成年度 経費 教員1人当り研究費等 500 千円 500 千円			分	-	前年度	開設年		完成年度	_ 研究費は一人50万円 の範囲内で旅费 ☆						
(8)	の見	l ^X	į 1.	ヘヨり	ຫ		500 千円	8, 600 ∃		購入費	22, 00	∪ +円	22, 000	十円	22,000 千円	備費、図書費消耗品 費に使用することが
経費の 積り及	見		同	研 3	克費等	Ξ	000 T円	7, 000 - 7	弘 借	購入費	3, 00	0 千円	3, 000	千円	3,000 千円	#日母の毒のうた
維持方の概	法一步。	11人	当	第	1 年次		第2年次	第	3年次	第4名	手 次	第	5 年次		第6年次	及び傾斜配分教育研 究費を計160万円増額
		り h付金	ļ	1,	185 千円	3	975 T	円	975 千円	97	75 千円		— 千F	7	— ff	1 to (25)
	学	生納付	金以	以外の組	維持方法の	の概要	入学検	定料収入	および補助	金収入等	で維持す	^ト る。				

4 既設大学等の状況

大学の名称	福	岡女学院	大学						備	考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学定 員	編入学 定 員	収 容 員	学位又 は称号	定 員超過率	開 設年 度	所 在 地		
	年	人	年次	人		倍				
			人							
大学院								福岡県福岡市南区		
人文科学研究科								曰佐3丁目42番1号		
修士課程										
比較文化専攻	2	6	_	12	修士 (比較文化)	0. 49	平成15年度			
臨床心理学専攻	2	10	_	20	修士(心理学)	1. 25	平成15年度			
人文学部			3年次							
現代文化学科	4	100	5	410	学士(人文学)	1. 14	平成13年度			
表現学科	4	_	_	_	学士(人文学)	_	平成13年度		※平成25	
言語芸術学科	4	50	2	100	学士(人文学)	0. 71	平成25年度		学生募集 現学科)	: 孛ഥ(衣
メディア・コミュニケーション学科	4	50	2	100	学士(人文学)	1.04	平成25年度			
英語学科	4	_	_	_	学士(人文学)	_	平成15年度		※平成26 学生募集 語学科)	6年度より ∳仲(英
人間関係学部			3年次							
心理学科	4	120	4	488	学士(人間関係学)	0. 95	平成11年度			
子ども発達学科	4	120	4	488	学士(人間関係学)	1. 04	平成11年度			
国際キャリア学部			3年次							
国際英語学科	4	50	2	50	学士(国際英語)	1. 22	平成26年度			
国際キャリア学科	4	70	3	70	学士(国際英語)	1.14	平成26年度			
 大 学 の 名 称	福	 岡女学院	大学短	期大学部	3				備	
既設学部等の名称	修業年限	入 学 定 員	編入学定員	収 容定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設年度	所 在 地		
	年	人	年次	人		倍				
			人							
英語科	2	100	_	300	短期大学士(英語)	0. 76	昭和39年	福岡県福岡市南区	※平成26 入学定員	i年度より ₋ 減(Δ100
								曰佐3丁目42番1号	名)(英語	科)
 大 学 の 名 称	福	】 岡女学院	看護大!	学					備	考
既設学部等の名称	修業	入学	編入学	収容	学位又	定員	開設	所 在 地		
ᄴᅉᅩᄡᅻᄊᅺᄳ	年限	定員	定員	定員	は称号	超過率	年 度	771 TL 765	-	
	年		年次人	人		倍				
看護学部			_ ^					福岡県古賀市千鳥		
看護学科	4	100	_	400	学士(看護学)	1. 07	平成20年度	1丁目1番7号		
1日吃了11	"	100	l —	700	丁工 (11 设于/	1.07	⊤,%∠0+皮	1 日 田 / 与	l	

- (注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(<u>A C 対象学部等含む</u>)について、それぞれの学校種ごとに、平成 2 6 年 5 月 1 日現在の上記項目の情報を記入してください。(ただし、専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)
 - ・ 「平均定員超過率」には,標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を,学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には,専攻課程)単位で記入してください。
 - 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「一」とし、「備考」に「平成 〇年より学生募集停止」と記入してください。
 - ・ 大学、短期大学においては学科単位(短期大学において専攻課程を置くときは専攻課程単位)、 大学院においては専攻単位で記入してください。

5 教員組織の状況

(1) 担当教員表

<人文学部 言語芸術学科>

		設	置	時 の 計	画			3	芝 貝			
専任・		- 10		-3 +> H1		専任・						
兼担・ 兼任 の別	職名	氏 (年	名 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	兼担・ 兼任 の別	職名	氏 (年	名 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	備考
専	教授 (学部 (学科 長)	吉田	修作	平成25年4月	日本語トレーニング I ※ 日本語トレーニング II ※ インブロ・ゲーム テーマ・ボング・ 言語 英術 基理 I ※ 言語 英術 演習 I 言語 英術 変 I 言語 英術 の フィールドワーク (実践) 国内 フィールドワーク (実践) 国内 フィールドワーク (実践) 国	専	教授部(長) (学科 -長)	吉田	修作	平成25年4月	日本語トレーニング I ※ 日本語トレーニング I I ※ インブロ・ゲーム ※ テーティッシンを ! ※ 言語芸術 接受 I ※ 言語芸術 所受 I 言語芸術 所受 I 言語芸術 所受 I 言語芸術 所受 I 言語芸術 所受 I 同時 フィールドワーク (理論) ! ※ 国内フィールドワーク (理論) ! I ※ 国内フィールドワーク (理論) E ※ 配信を読む J I 電話を タイル を ままま を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を	教育効果を考慮し授業形態を変更 (25) 学部長業務に専念するため (25)
專	教授	岩井	真實	平成25年4月	日本語トレーニング11※ 日本語トレーニング11※ 身体ンプリーング11※ 身体ンプリーングリーン テーシングリーングリーングリーングリーングリーングリーングリーングリーングルーング※ 言語語芸術演習1 言語語芸術研究1 高語語芸術研究1 高路芸術研究1 高路芸術研究1 高路芸術研究1 高路芸術研究1 高路芸術研究1 高路芸術研究1 高路芸術研究1 高路子の一ク(環論)1 第二十年 一の1 第二十年 一一一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	専	教授	岩井	眞實	平成25年4月	日本語トトレーニング11※ 日本語トレーニング11※ 身体ング1ップイング1ップイング1ップイング1ップインで、新春建11※ 言言語語芸術研究11 言言語芸術研究11 言語芸術研究11 言語芸術研究11 当時の12・一ルドワーク(環論) 19 国内内 12・一ルドワーク 12 (実践) 19 日本 12 「一ルドワーク 13 「一の 14 「一の 15 「一の	教育効果を考慮し授業形態を変更 (25)
專	教授	上田	恪	平成25年4月	シンキングゲーム I インプロ・ゲーム F インプロ・ゲーム テーマ・シンキング※ 言語芸術基種 I ※ 言語芸術展習 I 言語芸術研究 I 高がフィールドワーク (理論) I ※ 海外フィールドワーク (理論) I ※ 海外フィールドワーク (実践) 国内フィールドワーク(実践) 国内フィールドワークを表 「一般でラットビルディング I 小説のスタイル 名作芸術のーク・ンコップ C 言語芸術音声学 英語等等機論	專	教授科長)	上田	慘	平成25年4月	無語トレーング I 美語発音スキル I 実施発音スキル I 実 シンキングゲーム I インブー・シンキング※ 言語芸術演習 I 言語芸術研究 I 高約フィールドワーク (理論) I 第	教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 教育効果を考慮し授業形態を変更 (25) 教育効果を考慮し授業形態を変更 (25)

		設置	時 の 計	画			3	变 更	[状		
専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏(年	名 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	備考
專	准教授	文屋 敬	平成25年4月	日本語トレーニング I ※ 日本語・レーニング I ※ 日本語・レーニング I ※ シーキング ゲーム アーマ・シーキング ※ 言語 芸術 海 書 I 言語 芸術 術演習 I 言語 芸術 術演習 I 言語 芸術 術演習 I 言語 芸術 術演習 I 言語 芸術 所変 I 関内フィールドワーク (理論) 1 ※ 国内フィールドワーク で (理論) 1 ※ 国内フィールドワーク (理論) 1 ※ 国内フィールドワーク T (理論) 1 ※	専	准教授	文屋	敬	平成25年4月	日本語トレーニング I ※ 日本語トレーニング I I ※ 日本語トレーニング I I ※ シンキング ゲーム II ※ インブ ゲーム ※ テーマング I ※ 言言語芸術所研究 I 言言語芸術所研究 I 言言語芸術所研究 I 言言語芸術所研究 I 言言語芸術所研究 I 言言語芸芸術所研究 I 写 D I ※ 国内 D I ※ I ※ I ※ I ※ I ※ I ※ I ※ I ※ I ※ I ※	教育効果を考慮し授業形態を変更 (25) 教育効果を考慮し科目を追加 (25)
專	准教授	道行 千枝	平成25年4月	英語トレーニング I 英語トレーニング I インプロイン A インマ・大・スペース 言語 芸術 演習 I 言語 芸術 演習 I 言語 芸術 研究 I 高	専	准教授	道行	千枝	平成25年4月	英語トレーニング I 英語トレーニング I 英語トレーニング I インプロ・ゲールー テーマ・シンキング ※ 書語芸術基礎 I ※ 言語芸術演習 I 言語芸術演習 I 言語芸術演習 I 言語芸術演習 I 言語芸術演習 I (理論) I ※ 海外フィールドワーク (理論) I ※ 海外フィールドワーク (実践) 神会制作 I 株画研究 E 「新田・芸術で、アールドワーク (実践) 神会制作 I 株画研究 E 言語芸術で、アールドワーク (表践) 神会制作 I 株画研究 E 言語芸術で、アールドワーク (表現) 「本記 表現の で、アールドローク (表現) 「本記 スターの表現 (表現)	教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 受講者数を考慮し担当者を変更 (26) 受講者数を考慮し担当者を変更 (26) 受講者数を考慮し担当者を変更 (26) 受講者数を考慮し担当者を変更 (25) 受講者数を考慮し担当者を変更 (25) 受講者数を考慮し担当者を変更 (25) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
專	講師	上村 忠実	平成25年4月	英語発音スキルII 来語・アールーム テロールーム テロールーム テロールーム テロールーム デロールールールールールールールールールールールールールールールールールールール	専	准教授—講師	上村	忠実	平成25年4月	海外フィールドワーク (理論) II ※ 海外フィールドワーク (実践) 国内フィールドワーク (実践) ボッブカルチャーE 老作を読む E I 詩のスタイル 言語基新ワークショップド 富語基新ワークティークド イギリス文学0 東重!	教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 教育効果を考慮し授業形態を変更 (25) 学内人事に伴う昇任 (25) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
専	講師	大島 一利	平成25年4月	イギリスス字Ⅱ 聖書概数 キリスト教の間学 日本語トレーニング I ※ インブローゲーム テーマ・シンキング ※ 海外フィールドワーク (理論) I ※ 国内フィールドワーク (実践) 国内フィールドワーク(実践) ※ 家数 と 文化 言語表析フィールドワーク G	専	講師	大島	一利	平成25年4月	イギリス文学Ⅱ 室書概説 キリスト教の歴史と文化 キリスト教の間学 日本語トレーニングⅡ※ マインブロ・ゲーム※ テーマ・シンキング※ 満外フィールドワーク (理論) I ※ 国内フィールドワーク (理論) I ※ 国内フィールドワーク (理論) I ※ ま数と文化 言語基柄フークショップG 言語基柄フィールドワークG	受講者数を考慮し担当者を変更 (25) 受講者数を考慮し担当者を変更 (25) 教育効果を考慮し授業形態を変更 (25)
兼担	教授	清川 直人	平成25年4月	舞台制作 I 舞台制作 Ⅱ							
兼担	教授	Daniel E. Corl	平成25年4月	異文化コミュニケーション							
兼担	教授教授	沙田 肇子	平成26年4月	アメリカ大学の変遷I アメリカ大学の変遷I 教育原理I 人権教育の理論と指導法 教師教育の理論と指導法 教師教育の理論と指導法 教育実習I 教育実習IA 教育実習IB 教職実践漢言(中・高)	兼担	教授	伊藤	文一	平成26年4月	教育経営論 教育課程論 人権教育の理論と指導法 教師教育の理論と指導法 生使指導習 I 女教育実習 II A 教育実習 II B 教育実習 I B 教爾実践演習 (中·高)	教職議程認定委員会 からの意見を受け科目名 称を変更および科目追加 (25)

		設置	時 の 計	画			変 更	状	況	
専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	備考
兼担	教授	岩下 伸朗	平成25年4月	社会人入門皿 インターンシップ PC演習A(ワード) ジェンダースタディ(女性と社会) 経済学入門 国際経済論	O 7),19					
兼担	教授	佐島 顕子	平成25年10月	ジェンダースタディ(女性と聖書)	兼任	講師		平成26年10月	ジェンダースタディ (女性と聖書)	教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
兼担	教授	日野 資成	平成25年4月	異文化へのアプローチ(欧米) 異文化へのアプローチ(アジア)						
		細川 博文		英語科教育法 [兼任	講師		平成26年4月	英語科教育法 Ⅰ 英語科教育法 Ⅱ	教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
兼担	教授		平成26年4月	英語科教育法Ⅱ 英語科教育法Ⅲ 英語科教育法Ⅳ	兼担	教授	細川 博文	平成26年4月	英語科教育法Ⅲ 英語科教育法Ⅳ	
兼担	教授	山本 博	平成27年4月	アメリカ文学 I アメリカ文学 I					火品科教育法IV	
				7,7,7,7,7,1	兼担	教授	金藤 完三郎	平成25年4月	PC演習A (ワード)	教育効果を考慮し担当者を追加 (25)
兼担	准教授	守山 惠子	平成26年4月	児童日本語教育法 日本語教育概論 I 日本語教育概論 I 日本語教材研究 I 日本語教材研究 I 日本語教授法演習 I 日本語教授法演習 I 日本語教授法 演習 I 日本語教授法 で						1207
兼担	准教授	浮田 英彦	平成25年10月		兼任	講師		平成25年10月	社会人入門I	浮田准教授の長期研修に伴い担当 者を変更 (25)
兼担	准教授	大橋 由美	平成26年4月	児童英語教育法 第二言語習得理論 I 第二言語習得理論 II						
兼担	准教授	岡本 裕子	平成25年4月	フランス語 I フランス語 I フランス語 II フランス語 IV						
兼担	准教授	高岡 文章	平成25年4月		専	准教授	文屋 敬	平成25年4月	社会学入門	教育効果を考慮し担当者を変更 (25)
兼担	准教授	富永 幹人	平成26年10月	教育心理学	兼担	准教授	富永 幹人	平成26年10月	教育心理学	
					兼担	教授	田崎 敏昭	平成26年10月	教育心理学	教職課程認定委員会 からの意見を受け担当者 を追加 (26)
兼担	准教授	吉田 尚史	平成26年4月	教育原理 I	兼担	准教授	吉田 尚史	平成26年4月	教育原論 教育方法論	教職課程認定委員会 からの意見を受け科目名 称を変更および科目追加 (25) 教育効果を 考慮し担当者大変再 (教育原論) (26)
					兼任	講師	青木 研作	平成26年4月	教育原論	教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
				First-year English A I	兼担	講師	城戸 真由美	平成25年4月	First-year English A I	受講者数を考慮し担当者を変更 (25)
		Alon Williams			兼担	講師	林 千晶	平成25年4月	First-year English A I	受講者数を考慮し担当者を追加 (26)
兼担	講師	Alan Williams	平成25年4月	First-year English B II	兼担	講師	林 千晶	平成25年4月	First-year English B II	受講者数を考慮し担当者を変更 (25)
					兼担	講師	城戸 真由美	平成25年4月	First-year English B II	受講者数を考慮し担当者を追加 (26)
				First-year English A I	兼担	講師	Larson-Hall, Jenifer	平成26年4月	First-year English A I	
兼担	講師	Arthur A. Nakano	平成25年4月		兼担	講師	Lake, J. W	平成26年4月	First-year English A I	教育効果を考慮し担当者を変更・追加 (26)
				First-year English B I	兼担	講師	Larson-Hall, Jenifer	平成26年4月	First-year English B I	教育効果を考慮し担当者を変更・追加 (26)
兼担	講師	城戸 真由美	亚成25年10日	First-year English A II	兼担	講師講師	Lake, J. W 林 千晶	平成26年4月	First-year English B I First-year English A II	受講者数を考慮し担当科目を変更
水垣	נוום ניים		1-79,25年10月	your engilon A n			城戸 真由美	平成25年4月	First-year English A II	(25) 受講者数を考慮し担当者を追加
兼担	講師	小宮 芳幸	平成25年4月	教育原理 I 教育原理 I 人間形成と教育 比較教育 A (日本と欧米) 比較教育 B (日本とアジア)	兼担	講師講師	小宮 芳幸	平成25年4月	教育原論 教育経営論 人間形成と教育 比較教育A (日本と欧米) 比較教育B (日本とアジア)	(26) 教職課程認定委員会からの意見を 受け科目名称を変更 (25)
兼担	講師	田中 英資	平成25年4月		兼担	准教授講師	田中 英資	平成25年4月		誤記の訂正 (25)
兼担	講師	林 千晶	平成25年4月	First-year English B I	兼担	講師	城戸 真由美	平成25年4月	First-year English B I	受講者数を考慮し担当科目を変更 (25)
				In the state to the state of	兼担	講師	林 千晶	平成25年4月	First-year English B I	受講者数を考慮し担当者を追加 (26)
兼担	講師	平田 恵理	平成27年4月	児童英語指導法演習 I 児童英語指導法演習 I 児童英語フィールドワーク	## / P	5# /	Larson-Hall, Jenifer	TI # 00 # 15		
		Philippa.		First-year English A II	兼担	講師講師	Lake, J. W	平成26年4月	First-year English A II First-year English A II	教育効果を考慮し担当者を変更・追加 (26)
兼担	講師	Nugent	平成25年10月	First-year English BI	兼担	講師	Larson-Hall, Jenifer	平成26年4月	First-year English B II	
					兼担	講師	Lake, J. W	平成26年4月	First-year English B I	教育効果を考慮し担当者を変更・追加 (26)
兼任	講師		平成25年4月	ジェンダースタディ (女性と性)			後任未定			講師就任辞退のため後任を公 募中 (25)
					兼担	准教授	寄藤 晶子	平成26年4月	ジェンダースタディ(女性と性)	教育効果を考慮し担当者を新規採 用(26)
兼任	講師		平成26年10月	児童日本語教育法						講師就任辞退(26)

専任・ 兼担・ 兼任 の別 兼任	職名	氏 名			まけ					
		(年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	備考
	講師		平成25年10月	ヴォイストレーニング						
兼任	講師		平成26年4月	Listening Skills Writing Skills Academic Reading A Academic Reading B 児童文学(英語)	兼任	講師	Larson-	平成26年4月	Academic Reading B 児童文学(英語) Listening Skills	
** 1-	5# AT		T = 05 (5 A D		兼担	講師	Hall, Jenifer	平成26年4月	Writing Skills	教育効果を考慮し担当者を追加 (26)
兼任	講師			P C 演習 B (エクセル) 人権と法 (著作権法を含む)						
兼任	講師講師		平成25年4月	日本国憲法 日本語コミュニケーション技法 A 日本語コミュニケーション技法 B						
兼任	講師		平成27年10月	日本語コミュニケーション技法 C 教育相談						
兼任	講師		平成26年4月	英文法 I 英文法 Ⅱ						
兼任	講師		平成27年4月	キッズコミュニケーション						
兼任	講師		平成25年4月	Test Preparation						
兼任	講師		平成26年10月	障害児教育の理論と指導法						
兼任	講師		平成26年4月	Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B Listening Skills Writing Skills						
兼任	講師		平成25年4月	PC演習B(エクセル)	兼任	講師		平成25年4月	PC演習B(エクセル)	教育効果を考慮し担当者を変更・ 追加 (26)
					兼任	講師		平成26年10月	PC演習B(エクセル)	旦加(20)
兼任	講師		平成26年10月	社会人入門Ⅱ 健康・スポーツ科学実習A	兼任	講師		平成25年10月	社会人入門Ⅱ	教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
兼任	講師		平成25年4月	健康・スポーツ科学実習B						
兼任	講師			日本語コミュニケーション技法 A Listening Skills						講師就任辞退(26)
兼任	講師講師		平成26年4月	Writing Skills 中國語 I 中國語 I 中國語 I 中國語 II 中國語 II						
兼任	講師		平成27年4月							
兼任	講師		平成26年4月	アートマネージメント						
兼任	講師		平成25年4月	情報リテラシー PC演習C(応用)	兼任	講師講師講師		平成25年4月 平成26年4月 平成25年4月	博報リテラシー 情報リテラシー PC演習C(応用)	教育効果を考慮し担当者を変更 (25) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
兼任	講師		平成25年10月	ヘルシーダイエット						
兼任	講師		平成25年10月	生命科学入門						
兼任	講師		平成25年4月	Test Preparation Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B	兼任 兼任 兼任 兼任	講師講師講師講師	Lake, J. W	平成26年4月 平成26年4月 平成26年4月 平成26年4月	Test Preparation Test Preparation Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B	教育効果を考慮し担当者を変更・追加 (26) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 教育効果を考慮し担当者を変更 (28) 教育効果を考慮し担当者を変更 (28)
兼任	講師		平成26年4月	Speaking Skills A Speaking Skills B 古典文化E						
兼任	講師		平成26年4月	人権教育の理論と指導法						
兼任	講師		平成25年4月	PC演習B(エクセル)	兼任	講師		平成25年4月	P C演習B (エクセル) 情報リテラシー P C演習B (エクセル)	受講者教を考慮し担当科目を変更 (25) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 教育効果を考慮し担当科目を変更 (25) 別行にて計上済、重複のため削除 (26) 教育効果を考慮し担当者を変更
並に	ii		亚武05年4日	D C 淀粉 A (D 」 (*)	兼任	講師		平成26年4月		(26)
兼任	講師講師		平成25年4月	P C演習 A (ワード) 日本語コミュニケーション技法 A						
兼任	講師		平成25年10月	日本語コミュニケーション技法 C 韓国語 I 韓国語 I 韓国語 II 韓国語 II						

		設置	時 の 計	画			変更	状	況	
専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	備考
兼任	講師		平成25年4月	Test Preparation Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B						
兼任	講師		平成26年10月	特別活動の理論と指導法	兼任	講師		平成26年4月	特別活動の理論と指導法	教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
兼任	講師		平成25年4月	健康・スポーツ科学実習A 健康・スポーツ科学実習B						
兼任	講師		平成27年4月	日本語コミュニケーション技法 B 日本語コミュニケーション技法 C						
兼任	講師		平成25年10月	国際法入門						
兼任	講師		平成27年4月	日本語コミュニケーション技法B						
兼任	講師		平成25年10月	自然と環境						
兼任	講師		平成25年4月	Test Preparation Speaking Skills A Speaking Skills B	兼任 兼担 兼担 兼担	講師講師講師講師	Larson-Hall, Jenifer Larson-Hall, Jenifer Lake, J. W	平成25年4月 平成26年4月 平成26年4月 平成26年4月	Test Preparation Speaking Skills A Speaking Skills B Speaking Skills B	教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 教育効果を考慮し担当者を変更・追加 (26)
				Reading Skills A Reading Skills B	兼担 兼担 兼担	講師講師講師	Larson-Hall, Jenifer Larson-Hall, Jenifer Lake, J. W	平成26年4月 平成26年4月 平成26年4月	Reading Skills A Reading Skills B Reading Skills B	教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 教育効果を考慮し担当者を変更・追加 (26)
兼任	講師		平成26年4月	Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B	兼担 兼任 兼担	講師講師講師	Lake, J. W Lake, J. W	平成26年4月	Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B	教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
兼任	講師		平成25年4月	国際社会と民族						
兼任	講師		平成26年4月	政治学入門(国際政治を含む)						
兼任	講師		平成25年4月	健康・スポーツ科学実習 A 健康・スポーツ科学実習 B	兼担	教授	角南 良幸	平成25年4月	健康・スポーツ科学実習A 健康・スポーツ科学実習B	講師就任辞退のため担当者を変更 (25) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
					兼任	講師		平成26年4月	健康・スポーツ科学実習 A 健康・スポーツ科学実習 B	教育効果を考慮し担当者を変更 (26)

(注)・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に 所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。 ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。 ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。

- ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における漢年齢を、「変更状況」には平成26年5月1日現在の漢年齢 を記入してください。
- ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、 変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、 及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
- **鼠可で設置された学部等の専任教員を変更する場合**は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画 変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。A<mark>C教員審査を受けずに専任</mark> 教員として授業等を担当することは出来ません。
- ・ 「専任教員採用等変更書 (AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」,変更書を提出予定 の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 - なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度 () 書き等のみを記入してください。

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

		設 置	時の計	画			変	更 状	況	
専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	備考
毎	教授 (学長)	清川 直人	平成25年4月	デザイン論 デザインは基礎演習 卒業研究 I 卒業研究 I 卒業研究 I 卒業研究 I デザイン演習 I デザイン表現研究 C (集材) ワークショップ B フィールドワーク B	専	教授 (学科長)	清川 直人	平成25年4月	デザイン論 デザイン 基礎演習 卒業研究 I 卒業研究 I 卒業研究 I 卒業研究 I デザイン演習 I B デザイン演習 I B デザイン表現研究 C (映像) デザイン表現研究 C (映像) デザイン表現研究 C (映像) アザイン表現研究 C (映像) アリークショップ D コークショップ C	教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 受講者数を考慮し担当者を変更 (26) ^{総再効果を考慮し提集局を変更} (26) ^{被再効果を考慮し担当者及び4にパンへ変更 (25)} 別行にて計上済、重複のため削除 (26) ^{※可効果を考慮し実践の形成形成形成形成形成形成形成形成形成形成形成形成形成形成形成形成形成形成形成}
毒	教授	金藤 完三郎	平成25年4月	卒業研究 I 卒業研究 II 卒業研究 II デザイン演習 I A デザイン演習 I B デザイン設度 演習 I b 技事表現表現 デザイン表現研究 A (色彩) デザイン表現研究 F (C G) デザイン表現研究 F (素材) ワークショップ A フィールドワーク A	専	教授	金藤 完三郎	平成25年4月	卒業研究 I 卒業研究 I 卒業研究 I デザイン演習 I A デザイン I A デザイン形成論	教育効果を考慮し担当者、授業影態を変更 (25) 教育効果を考慮し担当科目を追加 (25) 教育効果を考慮し担当者を追加 (26)
					専	教授 (学科 長)	清川 直人	平成25年4月	ワークショップA※	
					専	教授	二階堂 整	平成25年4月	ワークショップ A ※	
					専	教授	德永 至	平成25年4月	ワークショップA※	教育効果を考慮し担当者、授業形態を変更(25)
					専	教授	Daniel E. Corl	平成25年4月	ワークショップ A ※	恋さ友史(20)
					専	准教授		平成25年4月	ワークショップA※	
					専	講師	林田 真心子	平成25年4月	ワークショップA※	
専	教授	二階堂 整	平成25年4月	入門ワークショップI 入門ワークショップI フミュケーション基礎需需※ 卒業研究 I 卒業研究 I マネ・エーケーション フミューケーション 社会 E では話話学 ワーク・ョップ E ワーイール語学 日本語史 I	専	教授	二階堂 整		入門ワークショップI 入門ワークショップI 大きュークショップI マネ・研究I 卒来研究I マネ・研究 II マネ・ディン・コン 演習 II A コミューケーション 注音 II A コミューケーション では 話語 学 ワーク・コップ E 日本 話 史 I フィールドワーク C フィールドワーク D	教育効果を考慮し担当者を変更 (25) 教育効果を考慮し担当者を変更 (25) 別行にて計上済、重複のため削除 (26) 物理の基準考慮し限素制制、相当者を変更 (26) 物質効果を考慮し限素制制、相当者を変更 (26)
				メディア基礎演習	兼任	講師		平成25年4月	コミュニケーション基礎演習メディア基礎演習	教育効果を考慮し担当者を変更 (25)
毒や	教授	徳永 至	平成25年4月	卒業研究 I 卒業研究 I 卒業研究 I 卒業研究 I マスティア演響 I マスコ等事間 B 研究 メディア表現研究A (放送・映像メディア) マスノギィア・フィールドワーク メディアとコミューケーション ワークショップ D フィールドワーク D	専	教授	德永 至	平成25年4月	卒業研究 I 卒業研究 I 卒業研究 I 卒業研究 I 卒業研究 I 卒業研究 I 下来研究 I 下来研究 I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	整育効果を考慮し授業形態、担当者を変更(26) 教育効果を考慮し担当者及びれニバス変更(25) 別行にて計上済、重複のことの削除(26)

		設 置	時の計	画				状		
専任・					専任・		- 5			備考
兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	VHI 75
専	教授	Daniel E.Corl	平成25年4月	入門ワークショップ I 入門ワークショップ I フミュニケーション基礎清智※ 卒業研究 I 卒業研究 II 戸コミュニケーション演習 IB コミュニケーション 関コミュニケーション 関コミュニケーション 関コミュニケーション 関コミュニケーション リカリーション ロミュニケーション ロミュニケーション リカリーション ロミュニケーション ロミュニケーション ロミュニケーション ロミュニケーション ロミュニケーション ロミュニケーション ロミュニケーション ロミュニケーション ロミュニケーション ロミュニケーション ロミュニケーション ロミュニケーション ロミュニケーション ロミュニケーション ロミュニケーション ロミュニケーション ロミュニケーション ロミュニケーション ロミュニケーション フィールドワーク C	專	教授	Daniel E.Corl	平成25年4月	人門ワークショップI 人門ワークショップI フェーケ・レーン・エ 東京研究 I 卒業研究 I コミュニケーション演習 I コミュニケーション ス 大化とコミュニケーション コミュニケーション コミュニケーション オールドワーク フィールドワーク C フークショップ ム ス	教育効果を考慮し担当者を変更 (25) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 教育効果を考慮し担当者を変更 ・ 追加 (26) 教育効果を考慮し担当者及びはかった更 (25) 別行にて計上済・重複かため削除 (26)
					兼任	講師		平成25年4月	コミュニケーション基礎演習	教育効果を考慮し担当者を変更 (25)
專	准教授	守山 惠子	平成25年4月	入門ワークショップI 入門ワークショップI 児童日本語教育基 児童日本語教育概論 I 日本語教育概論 I 日本語教育概論 I 日本語教材研究 II 日本語教材研究 II 日本語教授法漢習 I 日本語教育実習フィールドワーク フィールドワーク F	専	准教授	守山 惠子	平成25年4月	入門ワークショップI 入門ワークショップI 児童日本語教育法 日本語教育機論 I 日本語教育機論 I 日本語教育機論 I 日本語教授技漢漢習 I 日本語教授技漢習 I 日本語教授技漢書習 I 日本語教授技漢 20 プド フィールドワーク フィールドワーク フィール・ワークド フィール・ワークド	参南効果を考慮し担当者及びオムパスヘ・変更 (25) 別行にて計上済・重複のため削除 (26)
專	講師	林田 真心子	平成25年4月	現代メディア協 卒業研究I 卒業研究国 メディア変度 メディア変度 地域メディア・リテラシー メディア文化論 メディア文化論 メディア文化語 コミュニケーション フークショップG フィールドワーク G	專	講師	林田 真心子	平成25年4月	現代メディア論 卒業研究 I 卒業研究 I 卒業研究 I 卒業研究 I 日 メディア演習 I メディア演習 I メディア ア は 地域メディア で ルポップ・アンス 化論 カントラー カントラー カントラー カントラー カントラー フィールドワーク G フィールドワーク G フィール・アーク・ショップ C	戦育効果を考慮し担当者及びホニー゙スへ変更 (25) 別行にて計上済、重複のため削除 (26) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
兼担	教授	伊藤 文一	平成26年4月	教育原理Ⅱ	兼担	教授	伊藤 文一	平成26年4月	フィールドワーク C 教育経営論	************************************
兼担	教授	岩下 伸朗	平成25年4月	人権教育の理論と指導法 社会人入門皿 インターンシップ PC演習 A (ワード) ジッグ A タディ(女性と社会) 経済学入門 国際経済論	X.E	***		1 1000 - 471	人権教育の理論と指導法	受け科目名称を変更 (25)
兼担	教授	佐島 顕子	平成25年10月	ジェンダースタディ(女性と聖書)	兼任	講師		平成26年10月	ジェンダースタディ (女性と聖書)	教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
兼担	教授	日野 資成	平成25年4月	異文化へのアプローチ(欧米) 異文化へのアプローチ(アジア)						
兼担	准教授	浮田 英彦	平成25年10月	社会人入門I 組織コミュニケーション	兼任	講師	浮田 英彦	平成25年10月 平成26年4月	社会人入門 I 組織コミュニケーション	浮田准教授の長期研修に伴い担当 者を変更 (25)
兼担	准教授	大橋 由美	平成26年4月	児童英語教育法						
兼担	准教授	岡本 裕子	平成25年4月	フランス語 I フランス語 I フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ						
兼担	准教授	高岡 文章	平成25年4月		兼担	准教授	文屋 敬	平成25年4月	社会学入門	教育効果を考慮し担当者を変更 (25)
-	准教授	富永 幹人	平成26年10月		兼担	准教授	富永 幹人	平成26年10月	教育心理学	(25)
					兼担	教授	田崎 敏昭	平成26年10月		教職課程認定委員会からの意見を受け担当者
兼担	准教授	吉田 尚史	平成26年4月	教育原理Ⅰ	兼担	准教授	吉田 尚史	平成26年4月	教育原論	を追加 (26) 教職課程設定委員会からの意見を受け科目名 執意変更 (25) 教育効果を考慮し担当者を変 更 (26) 教育効果を考慮し担当者を変更
<u> </u>				聖書概説	兼任	講師		平成26年4月	软育原确	(26)
兼担	講師	大島 一利	平成25年4月							
				キリスト教入画子 First-year English A I	兼担	講師	林 千晶	平成25年4月	First-year English A I	受講者数を考慮し担当者を変更 (25)
					兼担	講師	城戸 真由美	平成25年4月	First-year English A I	教育効果を考慮し担当者を追加 (26)
兼担	講師	Alan Williams	平成25年4月	First-year English B II	兼担	講師	城戸 真由美		First-year English BI	受講者数を考慮し担当者を変更 (25)
				or your English B II			林 千晶			
					兼担	講師	1 88	平成25年4月	First-year English BII	教育効果を考慮し担当者を追加 (26)

		設置	時の計	画	1		変	更 状		T
専任・		改 旦	时 (7) al	凹	専任・		<u>英</u>	<u></u>	<i>л</i> .	_
兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	備考
兼担	講師	Arthur A. Nakano	平成25年4月	First-year English A I First-year English B I	兼担	講師	Philippa. Nugent	平成25年4月	First-year English A I First-year English B I	受講者数を考慮し担当者を変更 (25)
					兼担	講師	Larson-Hall, Jenife	平成26年4月	First-year English A I	■教育効果を考慮し担当者を変更・追加(26)
					兼担	講師	Lake, J. W	平成26年4月	First-year English A I	
					兼担	講師	Larson-Hall, Jenife	平成26年4月	First-year English B I	■教育効果を考慮し担当者を変更・追加 (26)
					兼担	講師	Lake, J. W	平成26年4月	First-year English B I	
兼担	講師	城戸 真由美	平成25年10月	First-year English A II	兼担	講師	城戸 真由美	平成25年4月	First-year English A II First-year English B II	受講者数を考慮し担当者を変更 (25) 別行にて計上済、重複のため削除 (26)
					兼担	講師	林 千晶	平成25年4月	First-year English A I	教育効果を考慮し担当者を追加 (26)
				教育原理 I					教育原論	教職課程認定委員会からの意見を
兼担	講師	小宮 芳幸	平成25年4月	教育原理 I 人間形成と教育 比較教育 A (日本と欧米) 比較教育 B (日本とアジア)	兼担	講師	小宮 芳幸	平成25年4月	教育経営論 人間形成と教育 比較教育 A (日本と欧米) 比較教育 B (日本とアジア)	受け科目名称を変更(25)
兼担	講師	田中 英資	平成25年4月	文化人類学	兼担	准教授	田中 英資	平成25年4月	文化人類学	誤記の訂正 (25)
N 12	MA Pul		1 /50.20 1.71		NK II	講師		1 /3020 1 1/1		
兼担	講師	林 千晶	平成25年4月	First-year English B I	兼担	講師	林 千晶	平成25年4月	First-year English B I First-year English A I	受講者数を考慮し担当者を変更 (25) 別行にて計上済、重複のため削除 (26)
					兼担	講師	城戸 真由美	平成25年4月	First-year English B I	教育効果を考慮し担当者を追加 (26)
兼担	講師	平田 恵理	교라이션 4년	児童英語指導法演習 I 児童英語指導法演習 I						
兼担	講師		平成2/年4月	児童英語フィールドワーク						
兼担	講師	Philippa. Nugent	平成25年10月	First-year English A II First-year English B II	兼担	講師	Arthur A. Nakano	平成25年4月	First-year English A II-	受講者数を考慮し担当者を変更 (25)
					兼担	講師	Larson-Hall, Jenife Lake, J. W	十成20年4月	First-year English A II	■ 教育効果を考慮し担当者を変更・追加 (26)
					兼担	講師		平成26年4月	First-year English A II	
					兼担	講師	Larson-Hall, Jenife	十成20年4月	First-year English B II	教育効果を考慮し担当者を変更・追加 (26)
					兼担	講師		平成26年4月	First-year English BI	教育范围去来南上田业老太沪加(96)
					兼担	教授	岩井 眞實	平成25年4月	ワークショップB フィールドワークB	教育効果を考慮し担当者を追加 (26) 教育効果を考慮し授業形態を変更、担当者を追加 (26)
					兼担	准教授	道行 千枝	平成25年4月	ワークショップB	教育効果を考慮し担当者を追加 (26)
兼任	講師		平成25年4月	ジェンダースタディ(女性と性)			後任未定			講師就任辞退のため後任を公 募中(25)
					兼担	准教授	寄藤 晶子	平成26年4月	ジェンダースタディ(女性と性)	教育効果を考慮し担当者を新規採
* 1-	# AT		T #00 F 10 F	10 to 1 to 10 to 1	NK II			1 3020 1 171		用 (26)
兼任	講師		平成26年10月	児童日本語教育法						講師就任辞退(26)
兼任	講師		平成26年10月	サウンド表現演習 B Listening Skills					Listening Skills	
兼任	講師		平成26年4月	Writing Skills Academic Reading A Academic Reading B 児童文学(英語)	兼任	講師講師	Larson- Hall, Jenifer	平成26年4月	Writing Skills Academic Reading A Academic Reading B 児童文学(英語) Listening Skills Writing Skills	教育効果を考慮し担当者を追加 (26)
					AIV JE	rate Carls	, 00111161	1 100-4-17		がらが水とう風りに当日で足加(20)
兼任	講師		平成25年4月	PC演習B(エクセル) 情報処理B						
兼任	講師		平成25年4月	人権と法 (著作権法を含む) 日本国憲法						
兼任	講師		平成26年10月	日本語コミュニケーション技法 A 日本語コミュニケーション技法 B 日本語コミュニケーション技法 C						
兼任	講師		平成27年4月	キッズコミュニケーション						
兼任	講師		平成25年4月	Test Preparation						
兼任	講師		平成26年4月	コピーライティング研究						
兼任	講師		平成26年10月	障害児教育の理論と指導法						
兼任	講師		平成26年4月	Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B Listening Skills Writing Skills						
兼任	講師		平成25年4月	PC演習B(エクセル)	兼任	講師		平成25年4月	PC演習B(エクセル)	教育効果を考慮し担当者を変更・
					兼任	講師		平成26年10日	PC演習B(エクセル)	」教育効果を考慮し担当名を変更・ 追加 (26)
# IT	## 6T		W #300 /# 10 P	44.A. 3.88 **						数本范围 4 本本 1 - 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12
兼任	講師		平成26年10月	社会人入門II 健康・スポーツ科学実習A	兼任	講師		平成25年10月	在会人人門Ⅱ	教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
兼任	講師		平成25年4月	健康・スポーツ科字実習 A 健康・スポーツ科学実習 B						

		設置	時の計	画			変 更	1 状		
専任・ 兼担・ 兼任	職名	氏 名 (年 齢)		担当授業科目名	専任・ 兼担・ 兼任	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	備考
の別	無台本		亚武26年10日	ごピノン 主項技術 5 / 空言\	の別					
兼任	講師			デザイン表現研究 D (写真)						THAT THE TANK (OO)
兼任	講師			日本語コミュニケーション技法 A Listening Skills						講師就任辞退(26)
兼任	講師		平成26年4月	Writing Skills 中国語 I						
兼任	講師		平成25年4月	中国語址中国語址						
兼任	講師		平成26年4月	視覚コミュニケーション論 デジタル表示論	兼任	講師		平成26年4月	視覚コミュニケーション論 デジタル表示論	教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
兼任	講師		平成26年4月	広告論 メディア表現研究B(新聞・出版) メディア表現研究C(広告) マーケティングとコミュニケーション						
				情報リテラシー PC演習C(応用)	兼任	講師		平成25年4月	情報リテラシー	教育効果を考慮し担当者を変更 (25) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
兼任	講師		平成25年4月	サウンド表現演習A	兼任	講師		平成25年4月	PC演習C(応用) サウンド表現演習A	教育が木とう感じに当省と交叉(20)
					兼任	講師		平成25年4月	情報リテラシー	教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
兼任	講師		平成25年10月	ヘルシーダイエット						
兼任	講師		平成26年4月	メディア制作ワークショップ						
兼任	講師		平成25年10月							
N/ III	man.		1 7520 1 1071	Test Preparation	兼任	講師		平成26年4月	Test Preparation	教育効果を考慮し担当者を変更・追加 (26)
* /r	*# AT		亚产05年4日	Speaking Skills A	兼担兼任	講師講師	Lake, J. W	平成26年4月 平成26年4月	Test Preparation Speaking Skills A	教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
兼任	講師		平成25年4月	Speaking Skills B Reading Skills A	兼任	講師講師		平成26年4月 平成26年4月	Speaking Skills B Reading Skills A	教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
				Reading Skills B	兼任	講師		平成26年4月	Reading Skills B	教育効果を考慮し担当者を変更(26)
兼任	講師		平成26年10月	映像論 Speaking Skills A	兼任	講師		平成26年4月	映像論	開講期変更に伴う就任年月の変更 (26)
兼任	講師		平成26年4月	Speaking Skills B						
兼任	講師		平成26年4月	人権教育の理論と指導法						
兼任	講師		平成25年4月	PC演習B(エクセル)	兼任	講師		平成25年4月	P C演響B(エクセル) 情報リテラシー	受講者数を考慮し担当科目を変更 (25) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 受講者数を考慮し担当科目を変更 (25) 別行にて計上済、重複のため削除 (26)
					兼任	講師		平成26年10月	PC演習B(エクセル)	教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
兼任	講師		平成25年4月	PC演習A (ワード)						(20)
兼任	講師		平成26年10月	日本語コミュニケーション技法A						
兼任	講師		平成25年4月	日本語コミュニケーション技法 C 韓国語 I 韓国語 I 韓国語 II 韓国語 II 韓国語 II						
兼任	講師		平成25年4月	Test Preparation Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B						
兼任	講師		平成26年4月	対人コミュニケーション						
兼任	講師		平成25年4月	健康・スポーツ科学実習 A 健康・スポーツ科学実習 B						
兼任	講師		平成27年4月	世版・スポーク科子美自D 日本語コミュニケーション技法B 日本語コミュニケーション技法C						
兼任	講師		平成25年10月							
兼任	講師		平成27年4月	日本語コミュニケーション技法B						
兼任	講師		平成26年4月	コミュニケーション論	兼任	講師	南至	平成26年4月	コミュニケーション語 コミュニケーション基礎演習 コミュニケーション論	教育効果を考慮し担当者を変更 (25)
兼任	講師		平成25年10月	自然と環境	兼担	講師	蘭 紅艶	平成26年4月	コミュニケーション基礎演習	教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
AK III	n ia ci a		1 %20年10月	- AT - OR 75				1		
兼任	講師			サウンド表現演習 C メディアアート論						
兼任	講師		平成26年4月	メディアアート演習	# /r	5# AT		W #05 / 1 7	Total Barrenshi	
兼任	講師		平成25年4月	Test Preparation Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A	兼担兼担兼担	講師講師講師講師講師	Larson-Hall, Jenifer Larson-Hall, Jenifer Lake, J. W Larson-Hall, Jenifer	平成25年4月 平成26年4月 平成26年4月 平成26年4月 平成26年4月	Test Preparation Speaking Skills A Speaking Skills B Speaking Skills B Reading Skills A	教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 教育効果を考慮し担当者を変更・追加 (26) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
				Reading Skills B	兼担	講師講師	Larson-Hall, Jenifer Lake, J. W	平成26年4月 平成26年4月	Reading Skills B Reading Skills B	教育効果を考慮し担当者を変更・追加 (26)
兼任	講師		平成25年4月	ビジネス英語	N/IE	MA GA	Eano, V. II	1 304417		
			1	I.			i .	ı	1	I

		設置	時 の 計	画			変更	状 :	兄	
専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼担・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	備考
兼任	講師		平成26年4月	Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B	兼担 兼任 兼担 兼任	講師講師講師講師	Lake, J. W Lake, J. W	平成26年4月 平成26年4月	Speaking Skills A Speaking Skills B Reading Skills A Reading Skills B	教育効果を考慮し担当者を変更 (26) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
兼任	講師		平成26年4月	ビジネスコミュニケーション						
兼任	講師		平成25年4月	国際社会と民族						
兼任	講師		平成26年4月	政治学入門(国際政治を含む)						
兼任	講師		平成25年4日	健康・スポーツ科学実習 A 健康・スポーツ科学実習 B	兼担	教授	角南 良幸	平成25年4月	健康・スポーツ科学実習A 健康・スポーツ科学実習B	講師就任辞退のため担当者を変更 (25) 教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
					兼任	講師		平成26年4月	健康・スポーツ科学実習 A 健康・スポーツ科学実習 B	教育効果を考慮し担当者を変更 (26)
兼任	講師		平成25年4月	マスカルチャー論						
兼任	講師		平成26年10月	情報処理C						
兼任	講師		平成26年4月	情報処理A						
					兼任	講師		平成26年10月	デザイン表現研究B(印刷)	教育効果を考慮し担当者を変更 (26)

- (注)・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に
 - ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。

 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、**「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢**を、**「変更状況」には平成26年5月1日現在の満年齢** を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合 (「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。) は、 変更後の状況を記入するとともに,その理由,後任者が決まっていない場合は,「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し,
 - 及び今後の採用計画を「備考」に配入してください。

 ・ <mark>殴可で設置された学部等の事任教員を変更する場合</mark>は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画 変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。

 AC教員審査を受けずに事任 教員として授業等を担当することは出来ません。

 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定
 - の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 - なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度 ()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

<人文学部 言語芸術学科>

	設	置時	の計	画		変	更	状 注	兄	年 齢	構成
教 授	准教授	講師	助教	計	教 授	准教授	講師	助教	計	定年規定の定め る定年年齢	定年を延長 している教員数
										教授	
3	2	2	0	7	3	3	1	0	7	68 歳	
										准教授·講師	
(3)	(2)	(2)	(0)	(7)	[0]	[1]	[\(\Delta 1 \)]	[0]	[0]	66 歳	0 名

- (注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成26年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例:1名減の場合:△1)
 - ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、 および、平成26年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている 教員数を記入してください。
 - ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

			設	置田	ŧ	の	計	画					刻	Ę	更	状	t	況			年	齢	構成	
	教	授	准教授	講師	ī	助	教		計	教	授	准	教授	講	師	助	教		計		定年規定の3		定年を延 している教	
Г																					教授			
	5	j	1	1		()		7		5		1		1		0		7		68	歳		
																					准教授·講師	師		
I	(5)	(1)	(1)	(())	(7)	[0]	[0]	[0]	[0]	ı	0]	66	歳		0 名

- (注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成26年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例:1名減の場合:Δ1)
 - ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、 および、平成26年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている 教員数を記入してください。
 - ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

<人文学部 言語芸術学科>

番号	職位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
_		該当なし	

(注)・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

番号	職位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
_		該当なし	

- (注)・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
- (4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<人文学部 言語芸術学科>

該当なし			

(注)・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

<人文学部 メディア・コミュニケーション学科>

該	当なし				

(注)・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区分	留 意 事 項	履行状況	未履行事項について の実施計画
設置時	該当なし	該当なし	該当なし
設置計画履行状況 調 査 時 (平成26年2月)	「福岡女学院大学短期大学部 英語科の定員充足率の平均が 0.7倍未満となっていることか ら、学生の確保に努めるとと もに、入学定員の見直しにつ いて検討すること。」	福岡女学院大学短期大学部英語科は、入学定員の見直しを行い、平成26年度より入学定員を200名から100名に変更した。また、学生募集の強化を行い、定員の確保を目指している。その結果、平成26年度の入学者数は102名となり、定員超過率は1.02倍となった。今後も、適正な入学者数の確保に努めたい。	該当なし
設置計画履行状況調 査 時 (年 月)			
設置計画履行状況調 査 時 (年 月)			

- (注)・「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項(<u>学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。</u>) と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、 報告年度を(<u>)書き</u>で付記してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する 履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付 してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<人文学部 言語芸術学科 及び メディア・コミュニケーション学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況,今後の見通しなど
① 既設大学等の状況	① 以下のとおり既設大学等を変更する。 教育の充実及び地域社会の要請に対応するため、平成 26(2014)年度より、既存の英語学科を国際英語学科に名 称変更し、カリキュラムを再編する。そして、新たに国際キャリア学科を設け、国際英語学科とともに2学科で 国際キャリア学部を構成する。(平成25年4月届出)
	国際英語学科の収容定員は204名(入学定員50名・編入学定員2名)、国際キャリア学科の収容定員は286名(入学定員70名・編入学定員3名)とし、国際英語学科の収容定員のうち166名については、平成26年4月より既設の人文学部英語学科(入学定員40名・編入学定員38名)を募集停止し、その入学定員と編入学定員をあてる。残りの324名(国際英語学科の残りの収容定員38名及び国際キャリア学科の収容定員286名)については、国際英語学科の入学定員を人文学部英語学科のものから10名増加(編入学定員は1名減)し、新たに国際キャリア学科の定員を70名(編入学定員3名)にするなどして収容定員を増加した。(平成25年6月認可)
	また、福岡女学院大学短期大学部は、時代の変遷や教育ニーズの変化に対応して教学組織の再編を行なってきたが、少子化による18歳人口の減少、四年制大学志向の進展、学習機会の多様化などの要因により、志願者数・入学者数は年々減少していった。近年は落ち込みが更に厳しく、入学者数は、現行の入学定員200名を下回る結果となった。このため、安定的に定員を充足できるよう、平成26(2014)年度より入学定員100名・収容定員200名とした。(平成25年6月届出)
	さらに、平成27(2015)年度より、大学院人文科学研究科に発達教育学専攻(入学定員5名、収容定員10名。修士部程)を設置し、既設の比較文化専攻(入学定員6名、収容定員12名)の定員を減じ、入学定員5名、収容定員10名とする計画である。(平成26年5月認可申請予定)
平成25年度まで 福岡女学院大学 人文学部英語学科	平成26年度より 福岡女学院大学 人文学部英語学科(学生募集停止)
入学定員 40名	
3年次編入学定員 3名	国際キャリア学部 国際英語学科
収容定員 166名	入学定員 50名
	3年次編入学定員 2名 (平成28年度より)
	収容定員 204名
	国際キャリア学科
	入学定員 70名
	3年次編入学定員 3名 (平成28年度より)
	収容定員 286名
福岡女学院大学短期大学部 英語科	福岡女学院大学短期大学部 英語科
入学定員 200名	入学定員 100名
収容定員 400名	収容定員 200名
平成26年度まで	平成27年度より
福岡女学院大学大学院 人文科学研究科	福岡女学院大学大学院 人文科学研究科
比較文化専攻	比較文化専攻(変更予定)
入学定員 6名	入学定員 5名
人子定員 0名 収容定員 12名	ハ子疋貝 9名 10名 収容定員 10名 10A 1
松台疋貝 12石	収合定員 10名 発達教育学専攻(設置予定)
	入学定員 5名
	収容定員 10名

<sup>|
(</sup>注)・ 1~6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

大学に自己点検・評価・FD委員会を設置している。※規程を別添

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む) 今年度第1回の開催を5月に予定している。

- c 委員会の審議事項等
 - ・FD研修会の内容について
 - ・学生による授業評価の実施について
 - ・自己点検評価報告書の作成について

② 実施状況

- a 実施内容
 - FD研修会
 - 「学生による授業評価」の実施
- b 実施方法
 - ・FD研修会は外部講師を招いての講演や、学外で行なわれたFD研修会へ参加した教員の成果報告。
 - ・「学生による授業評価」は前期(7月)後期(12月)に実施し、受講者等10名以上の授業を対象に教員が実施授業を選択。
- c 開催状況 (教員の参加状況含む)
 - ・平成25年度の実績として6月、9月、3月に開催しほぼ全ての専任教員が参加した。 平成26年度は2回の研修会を予定している。
- d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

授業別集計と全体平均について結果表を専任教員および非常勤講師へ配布し、今後の授業改善に役立てている。 また、実施結果を見て感じたことを文章化し、学生へのフィードバックを行なっている。

- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
 - a 実施の有無及び実施時期

「学生による授業評価」を前期(7月)と後期(12月)に実施している。

b 教員や学生への公開状況,方法等

授業別集計と全体平均について結果表を専任教員および非常勤講師へ配布し、学生へのフィードバック文章を 作成している。作成されたフィードバック文章は全体平均とともに学内ページにて公開している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。 「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照) ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

言語芸術学科は、平成26(2014)年度入学試験において、入学定員50名に対し、32名の学生確保にとどまった。保護者との懇談会や高校訪問からわかるのだが、「全人的な教養教育」という本学科の教育方針は、社会経験豊かな高等学校教師や保護者の世代には歓迎されている。しかしながら、「就職に役立つ技術や科目」などの謳い文句になれている高校生には大変イメージしにくい学科のようである。

入学した学生は、本学科の教育方針を理解して選択してきた学生がほとんどで、学生の入学後の学科カリキュラムに対する満足度は大変高い。カリキュラムの特徴であるフィールドワークなどの実践系の科目の中で見る学生の反応から、そのことはよくわかる。

とはいえ、入学試験の結果がこのような形で出ている事実は素直に受け止め、本年度の学校案内に慎重な対策を考えて行く。また、入学試験も、わかりやすいものとする工夫をする。

メディア・コミュニケーション学科は、平成26 (2014) 年度入学試験において、入学定員50名に対し、52名の入学者を確保できた。一般入試前期・後期の入学者は、2013年度比96%となっており、受験者の動向に変化はない。昨年に引き続き、本学を積極的に志望する学生確保ができている。

本年度はじめに入学者に対して実施したアンケートからは、カリキュラムや卒業後の進路を考えて本学科に入学した者が多いこと、本学科を第一志望で受験したものが多いことが分かった。このことから多くの学生が本学科の設置の趣旨・目的を理解した上で入学したものと言える。

このように受験者の入学試験受験の傾向から、本学科の設置の趣旨・目的は十分に達成できていると考えられる。

- ② 自己点検・評価報告書
 - a 公表 (予定) 時期

平成27年5月1日 公表予定

b 公表方法

大学ホームページ上で公表する予定

③ 認証評価を受ける計画

大学基準協会による認証評価を平成26年度に申請した。

(注)・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

- (4) 情報公表に関する事項
- 〇 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

有

無)

b 公表時期(未公表の場合は予定時期)

(平成26年度分は、平成26年7月1日に公表予定)

〇福岡女学院大学自己点検·評価·FD 委員会規程

1992 (平4) 年11月10日制定

最終改正 2007 (平19) 年 1 月 10日

(目 的)

第1条 福岡女学院大学自己点検・評価・FD 委員会は、福岡女学院大学(以下「本学」という。) の教育研究水準の向上を図り、本学の建学目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動及び管理運営等の状況について、自ら行う点検及び評価(以下「自己点検・評価」という。) に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(自己点検·評価·FD 委員会)

- 第2条 本学に、次の各号に掲げる事項を審議し処理するため、福岡女学院大学自己点検・評価・FD委員会(以下「委員会」という。)を置く。
 - (1) 本学における自己点検・評価の基本方針及び実施基準の策定に関すること
 - (2) 本学における自己点検・評価の実施に関すること
 - (3) 本学における FD に関すること
 - (4) 自己点検・評価結果のとりまとめに関すること
 - (5) 自己点検・評価結果の学長への報告に関すること
 - (6) 自己点検・評価システムの見直しに関すること
 - (7) その他自己点検・評価に必要な事項に関すること (組織)

(加山市以)

- 第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する
 - (1) 学 長
 - (2) 学部長
 - (3) 研究科長
 - (4) 宗教部長
 - (5) 図書館長
 - (6) 教務部長
 - (7) 学生部長
 - (8) 各学部から選出された委員1名
 - (9) 事務部長
 - (10) その他委員長が必要と認めた者

(任期)

- 第4条 前条第8号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 2 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。 (委員長)
- 第5条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。
- 2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代理する。 (会議)
- 第6条 委員会は委員の3分の2以上が出席しなければ議事を開き、議決することができない。
- 2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(小委員会)

- 第7条 委員会は必要に応じて小委員会を置くことができる。
- 2 小委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員会が必要を認めたときは、委員以外の者に出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(自己点検・評価の実施機関)

- 第9条 自己点検・評価を行う実施機関(以下「実施機関」という。)は、次の各号に掲げると おりとする。
 - (1) 学 部
 - (2) 大学院
 - (3) 宗教部
 - (4) 図書館
 - (5) 教務部
 - (6) 学生部
 - (7)人文学研究所
 - (8) 健康センター
 - (9) 生涯学習センター
 - (10) メディアセンター
 - (11) 事務部
 - (12) その他委員会が必要と認める機関
- 2 実施機関が行う自己点検・評価の実施に関し必要な事項は、この規程に定めるもののほか 当該実施機関が定める。

(自己点検・評価の事項)

- 第10条 委員会及び実施機関は、次の各号に掲げる事項について自己点検・評価を行う。
 - (1) 本学の教育理念及び目的に関すること
 - (2) 教育研究上の組織に関すること
 - (3) 学生の受入れに関すること
 - (4) 教育課程に関すること
 - (5) 教育研究活動に関すること
 - (6) 教員組織に関すること

- (7) 図書及び学術情報に関すること
- (8) 学生生活に関すること
- (9) 施設及び設備に関すること
- (10) 管理運営に関すること
- (11) 事務組織に関すること
- (12) 自己点検・評価の組織に関すること
- (13) その他委員会が必要と認める事項
- 2 前項各号に掲げる事項に係る自己点検・評価の項目(以下「点検・評価項目」という。)は、 委員会が別に定める。
- 3 委員会及び実施機関が行う具体的な点検・評価項目については、年度毎に委員会が定める。 (自己点検・評価の実施及び結果等の報告)
- 第11条 実施機関は委員会の決定に基づき、自己点検・評価を毎年度行い、その経過及び結果 について委員会に報告するものとする。
- 2 委員会は自己点検・評価を毎年度行い、委員会及び実施機関が行った自己点検・評価の経 過及び結果をとりまとめ学長に報告する。

(自己点検・評価の結果の公表)

第 12 条 学長は前条の自己点検・評価の結果を文書にまとめ、公表するものとする。 (自己点検・評価の結果の対応)

- 第 13 条 学長及び実施機関の長は、委員会及び実施機関が行った自己点検・評価の結果に基づき、改善が必要と認められるものについては、その改善に努める。
- 2 学長は、全学に係る事項で、関連する学内の委員会において改善策を検討することが適当 と認められるものについては、当該委員会に付託する。
- 3 学長は、実施機関に係る事項で、委員会が行った自己点検・評価の結果に基づき、特に改善が必要と認められるものについては当該機関の長にその改善策の検討を求めることができる。
- 4 学長は自己点検・評価の結果をふまえ、本学の中長期計画に反映させるよう努めるものと する。

(事務)

第14条 委員会の事務は、事務部長の委嘱したものが担当する。

(規程の改廃)

第15条 この規程の改廃は、委員会の議を経て学長が行うものとする。

(雑則)

第 16 条 この規程に定めるもののほか、自己点検・評価に関し必要な事項は委員会が別に定める。

附 則①

1. この規程は、1993 (平5) 年4月1日から実施する。

附 則②

1. 第2条の一部を改正し、1994(平6)年4月1日から実施する。 附 則③

- 1. 第2条の一部を改正し、1996 (平8) 年4月1日から実施する。 附 則④
- 1. 規程を全面的に改正し、2002 (平14) 年4月1日から施行する。 附 則⑤
- 1. 第3条、第9条および第15条の一部を改正し、2003 (平15) 年4月1日から実施する。 附 則⑥
- 1. 第4条の一部を改正し、2007 (平19) 年1月10日から実施する。